

令和2年度・3年度 上尾市教育委員会委嘱
図画工作科研究発表会

研究紀要

自分の思いを基に、生き生きと表現する児童の育成
〜表したいことを見付け、広げ、実現していく〜

図画工作科の指導と評価の工夫

令和3年11月9日(火)
上尾市立大石小学校

目 次

挨拶	・・・・・・・・ P. 1
I 研究の概要	・・・・・・・・ P. 3
1 研究主題	
2 研究主題設定の理由	
3 研究の内容	
4 研究の組織	
II 専門部の取組	・・・・・・・・ P. 6
学習指導部	
学習評価部	
環境整備部	
研究評価部	
III 研究のまとめ	・・・・・・・・ P. 43
研究の成果と課題	
研究のまとめ	
あ と が き	・・・・・・・・ P. 50



挨拶

上尾市教育委員会教育長 池野 和己

大石小学校におかれましては、令和2・3年度上尾市教育委員会の委嘱を受け、「自分の思いを基に、生き生きと表現する児童の育成～表したいことを見付け、広げ、実現していく図画工作科の指導と評価の工夫～」を研究テーマに、学習指導の研究に取り組まれました。このたび、2か年の研究の成果を発表されますことに、心から敬意を表します。

さて、新学習指導要領では、感性や想像力を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することが求められております。

このような中、本校におかれましては、友達の表現や既習の表現技法のよさを感じ取れる場面を意図的に設定したり、環境を整理したりすることで表現と鑑賞を相互に関連させた指導の工夫をされてきました。また、題材マップを活用し、題材ごとの「育成する資質・能力」や「発想のきっかけ」、「指導の手立て」を明確にすることで、児童の思考を促し、感性や想像力を豊かに働かせて思考・判断する授業の展開をされました。さらには、題材系統表を作成し、系統ごとに展開例を作成することで、指導のねらいからずれることなく題材を展開できるようにされました。

これらの研究は、図画工作科において「自分の思いを基に、生き生きと表現する児童の育成」に向けた授業改善として、本市の学習指導の取組に寄与するものと期待しております。

結びに、これまで御指導を賜りました指導者の方々、御支援いただきました保護者・地域の皆様に厚くお礼を申し上げます。また、増田校長先生をはじめ、教職員の皆様の熱心な研究への取組に対し感謝を申し上げますとともに、大石小学校のさらなる発展を祈念し、挨拶といたします。



挨拶

上尾市立大石小学校長 増田 司

本校では、上尾市教育委員会より令和2・3年度「魅力ある学校づくり」の図画工作科研究校として委嘱を受け、研究主題を「自分の思いを基に、生き生きと表現する児童の育成」とし、副題を「表したいことを見付け、広げ、実現していく図画工作科の指導と評価の工夫」として図画工作科の研究を進めてまいりました。

これからの社会が、人間の予測を超えて加速度的に進展していくことを踏まえ、複雑で予測困難な時代の中でも、児童一人一人が、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を發揮し、人生を切り拓くことができる児童の育成を目指して取り組んでまいりました。

授業を計画するにあたっては、「育成する資質・能力」や「発想のきっかけ」を明確にした題材計画、思考を促す導入や展開、自然と鑑賞や対話が生まれる環境を大切にし、実践にあたっては大規模校である本校の特色を生かし、日頃から学年で授業を検討・実践・改善を繰り返しながら、よりよい授業を教師一人一人が目指し、実践してきました。

この成果として授業の中で思考を繰り返す児童や、自信をもって表現する児童もたくさん見られるようになりました。まだまだ十分とは言えませんが、これまでの研究の成果を生かし、さらに研究を深化・発展・充実させていきたいと考えております。

結びに、本研究の推進にあたり、ご指導賜りました東京家政大学教授岡田京子様、戸田市立戸田第二小学校長山根淳一様、桶川市立日出谷小学校長閑野千鶴様、上尾市教育委員会の皆様をはじめ多くの指導者の皆様に深く感謝申し上げます、あいさつとさせていただきます。

I 研究の概要



1 研究主題

2 児童の実態と、

研究主題設定の理由

3 研究の内容

4 研究組織

I 研究の概要

1 研究主題

自分の思いを基に、生き生きと表現する児童の育成

～表したいことを見付け、広げ、実現していく図画工作科の指導と評価の工夫～

2 児童の実態と研究主題設定の理由

2020年以降の新型コロナウイルス感染拡大により、社会が加速度を増し、複雑で予測が困難になってきていることが現実のものとなった。現在、私たち一人一人が、そして社会全体が先行きの見えない状況の中でこれまで培った知識及び技能、情報を活用し、試行錯誤しながら生活の安心・安全を守ろうとしている。学校現場でも活動が制限されるコロナ禍において、児童の学習を保障していくため、教職員それぞれが主体的に考え、協働的に議論し、よりよい手立てを導き出すことを繰り返してきた。それは、まさに新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められている状況にあるということである。

このような時代を生きる児童には、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自らの能力を引き出し、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を育成していくことが重要である。

本校では、学校教育目標「考える子・思いやりのある子・がんばる子」の具現化に向けて135年の伝統を継承すると共に、活力と信頼に満ちた、魅力あふれる生き生きとした学校づくりを推進してきている。本校の児童は、真面目で、決められたことにはきちんと取り組むことができる、素直でよりよい人間関係を構築できるというよさがある。一方で、自分のよさがわからない、自信をもって挑戦できないといった課題がいまだに残っている。自己肯定感とは他者への尊重にもつながり、他者と協働して主体的に問題を解決していく素地となっていく。また、自信をもって挑戦することは自らより良い未来を切り拓いていくために不可欠である。そこで、本校では、図画工作科の授業を通して未来に生きる児童の資質・能力を育成していこうと考えた。

図画工作科では、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成を目指している。とりわけ造形的な「見方・考え方」は「感性や想像力を働かせ、対象や事象を形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。」とされており、こうした「見方・考え方」の特徴は、知性と感性の両方を働かせて対象や事象を捉えることである。知性だけでは捉えられないことを、身体を通して、知性と感性を融合させながら捉えていくことが、他教科以上に図画工作科が担っている学びである。

図画工作科の学習活動において児童は、造形的な見方・考え方を働かせ、自分の思いを基に、自分自身の感性を知性と一体として働かせながら試行錯誤して思いを実現させていく。その中で自分にとっての新しい意味や価値を見付け、同時に自分自身もつくりだしていく。さらに、他者との関わりから自他の表現の良さに気付く、自分の表現を広げていくことを通して、自分らしさや自他の可能性に気付くこともある。このような活動の中で、児童の新しい価値を創造していく力、自他を尊重する態度、自信をもって挑戦していく力を育成していこうと考え、本研究主題を設定した。

2030年の社会と児童の未来

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっており、社会の変化にいかに対処していくかについて受け身の観点で立つのであれば難しい時代になる。

未来を生きる児童に必要な力

直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自らの能力を引き出したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していく力。

本校児童の実態

- ・真面目で、決められたことにはきちんと取り組める児童が多い。
- ・素直な児童が多い。

△自己肯定感の低い児童が多い。

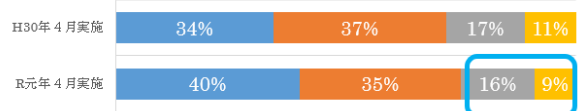
△自信をもって挑戦できない児童が多い。

△何かを達成した経験が少ない。

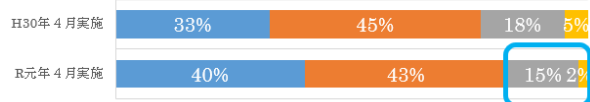
○令和元年度埼玉県学力・学習状況調査結果

思う どちらかといえば、思う どちらかといえば思わない 思わない

① 自分には、よいところがあると思う。



② 難しいことでも失敗をおそれずに挑戦している。



図画工作科の特性

- ・自分の思いを基に、感性を知性と一体として働かせ、発想したり工夫したりして創造的に表現する。
- ・表現や鑑賞の活動を通して、自分自身を見つめ直し、自分らしさや自他のよさや可能性を見付ける。
- ・どの児童の表現も認められる。
- ・自分の力でやり遂げる経験を積むことができる。

図画工作科で育成する資質・能力
表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力

「見付け」「広げ」「実現」していく学習活動を通して

図画工作科における目指す児童像

- 表したいことを見付け、発想や構想を繰り返しながら工夫して表現をしていく子
- 表現していく中で、自分らしさや、自他のよさを見付けていける子



育成したい力

自他のよさを認め尊重する態度・自信をもって挑戦していく力・新しい価値を創造していく力

学校教育目標

「考える子」「思いやりのある子」「がんばる子」

3 研究の内容

研究主題

自分の思いを基に、生き生きと表現する児童の育成
～表したいことを見付け、広げ、実現していく図画工作の指導と評価の工夫～

仮説2：表現と鑑賞を相互に関連させるような指導や環境を工夫することで、新たな発想や構想を得るだろう。また、自分らしさや友人のよさや個性にも気付くだろう。

手立て②

表現と鑑賞を関連させた指導の工夫 (広げ)

- ・表現の途中で友人の作品を鑑賞し、新たな発想や技能を得ることができよう
- ・表現の途中で自分の活動や作品を振り返る環境や指導の工夫



友人との
対話

表したい
思い



材料・用具、
環境との
対話

表した
い

自分との
対話

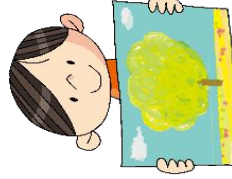


造形活動のきっかけ
感じたこと 想像したこと
見たこと 伝えたいこと
など

教師との
対話

表したい
思い

作品との
対話



学校教育目標
考える子
思いやりのある子
がんばる子

思いの実現

新しい意味や価値を
創造していく力
自他のよさを認め尊
重する態度
自信をもって挑戦し
ていく力

仮説1：児童が造形的な活動を思い付いたり、表したいことを見付けたりすることのできる導入、どのようなように活動したり表したりするか思考を繰り返すことのできる展開、を工夫すれば、児童は創造的に発想や構想をしていくだろう。

手立て①

造形活動の意欲を高め、表したいことを見付けられる導入と、どのように表すかについて考えることを繰り返す展開の工夫 (見付け・広げ)

- ・題材で育成したい資質・能力を明確にした指導の計画
- ・発想のきっかけを明確にした指導の計画と発想のきっかけに応じた導入
- ・児童がどのように表すかについて繰り返して思考できる場や展開の工夫
- ・児童の思考や活動を想定した指導と評価の計画

Ⅱ 専門部の取組

学習指導部



研究評価部

環境整備部



研究評価部



学習指導部

1 取組内容

(1) 手立て1について

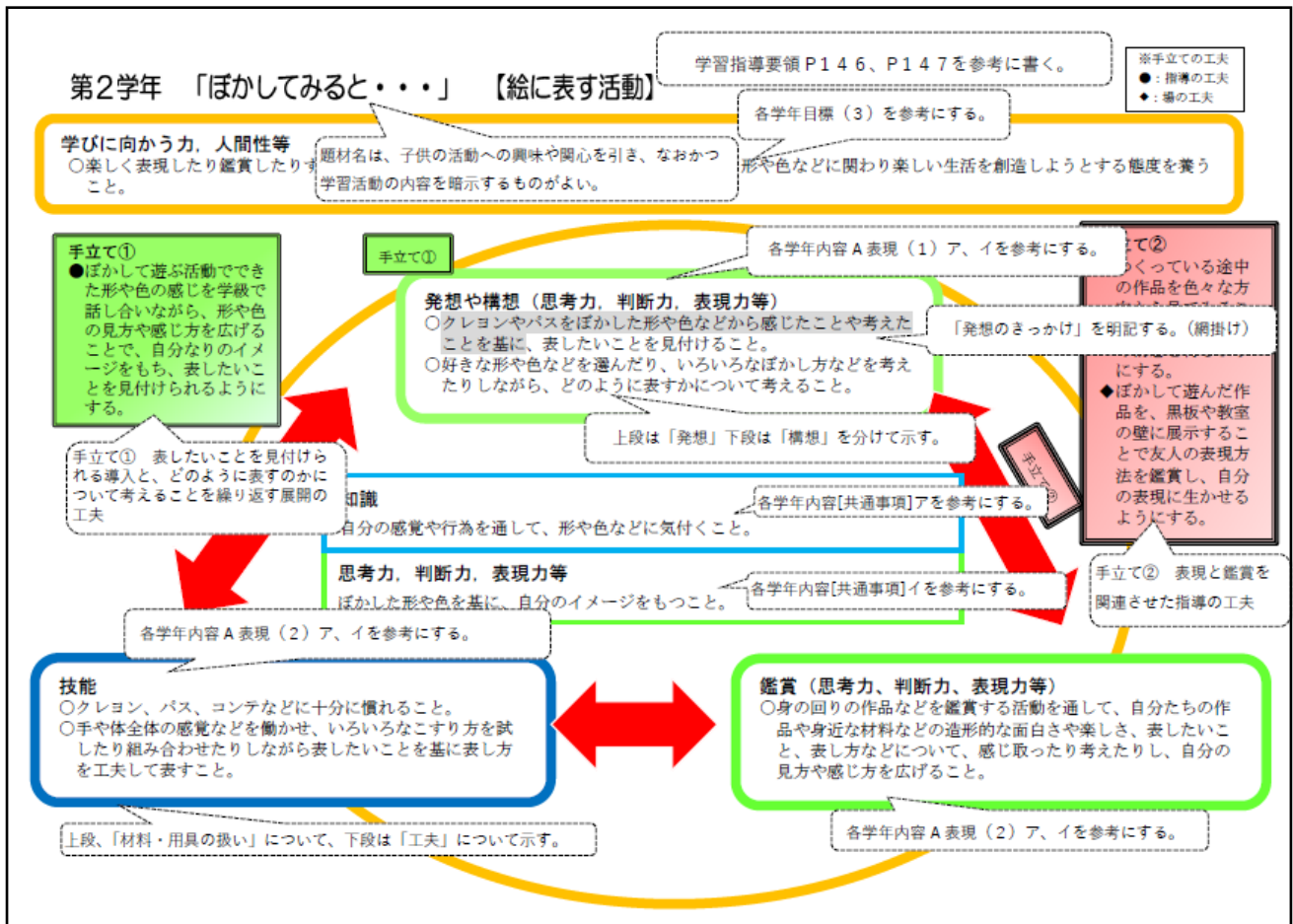
【手立て1】

表したいことを見つけられる導入の工夫と、どのように表すかを考えることを繰り返す展開の工夫

①育成する資質・能力を明確にした授業計画について

ア 題材マップの作成

これまで使用していた題材マップの改訂を行った。題材において「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の各観点で育成する力を記入し、それに対する手立てを考えた。題材で身に付けさせたい力とそのための手立てを明確にすることで、題材の目標と指導内容がずれないようにした。また、題材マップの校内用ひな形を整理し、作成の仕方や見方についての共通理解がより確実なものになるようにした。



②「発想のきっかけ」を明確にした授業計画について

ア 題材系統表の作成

題材系統表を作成し、全学年の活動について一覧で見渡せるようにした。それにより、これまでの児童が扱ってきた材料・用具や、どのように発想して表現してきたのかについて教師が確認

しながら授業を計画できるようにした。また、各題材を系統立てて記載することにより、各学年バランス良く学習できるようにした。

さらに翌年には、題材系統表の項目をA～Kの項目にまとめ直した。特にC～Hについては「表したいことのイメージが先に明確にあり、それを実現していく傾向の強いもの」と「表しながら表したいことを次々と思いつかべ、表現の思いが膨らんでいく傾向の強いもの」とで項目を整理し、6年間を通して児童が様々なことをきっかけとして発想・構想しながら表現していけるように題材を捉え、計画した。 ※資料1

イ 題材展開例の作成

学年ごとに系統別の題材展開例を作成した。「やってみる⇔見付ける⇔つくる」、「話し合う⇔見付ける⇔つくる」等、写真と共に簡潔にまとめた。その題材が「表しながら表したいことを次々と思いつかべ、表現の思いが膨らんでいく傾向の強いもの」なのか「表したいことのイメージが先に明確にあり、それを実現していく傾向の強いもの」なのかが明確になるようにし、指導の方向性がずれることなく題材を展開できるようにした。また、題材系統表のA～Kの項目別にまとめた。

※資料2



ウ 新学習指導要領に準拠した年間指導計画の作成

「表したいことのイメージが先に明確にあり、それを実現していく傾向の強いもの」と「表しながら表したいことを次々と思いつかべ、表現の思いが膨らんでいく傾向の強いもの」を、児童が1年間でバランス良く学習できるように年間指導計画に整理した。

また、児童にとって造形活動のきっかけが何になるのかについても明確にすることで、教師が授業を計画していく上でずれが生じないようにした。

学習過程・・・☆：表したいことのイメージが先に明確あり、それを実現していく傾向の強いもの。
 ○：表しながら表したいことを次々と思いつき、表現の思いが膨らんでいく傾向の強いもの。

月	項目	題材名	時数	主な材料・用具	場所	学習過程	造形活動のきっかけ	観点別評価規準
4	鑑	ちいさなびじゅつかん (図工開き)	1		教室			知 身の回りの作品の形や色などに気付いている。 思 身の回りの作品の造形的な面白さや楽しさを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げている。 主 1年間の図工の授業に期待をもち、たのしく取り組もうとしている。
	絵	好きなもの いっぱい	2	クレヨン、パス、 カラーペン・ 画用紙	教室	☆	自分の好きなことやものについて感じたこと	知 互いの作品を見合うことを通して、形や色の面白さやよさに気付いている。 クレヨンやパスなどの扱いに慣れ、形や色がかきたる工夫して表している。 思 経験したことや想像したことを基に表したいものを見付け、どのように表すかを考えている。 主 思い付くままに絵をかくことに関心をもち、楽しく取り組もうとしている。
5	造	ねんどとなかよし	1	油粘土	教室	○	粘土に触って感じたことやそこから生まれる形	知 粘土に働きかける感覚や行為を通して、触った感じや形の変化に気付いている。 丸める、のぼす、つまむなど、手や体全体の感覚を働かせながら活動を工夫してつくっている。 思 粘土に触った感じやそこから生まれる形を基に、造形的な活動を思い付き、どのようにかたづくるかを考えている。 主 粘土の触り心地のよさを味わいながら、いろいろな形を見付けることを楽しもうとしている。
	絵	クレヨンやパスとなかよし	2	クレヨン、パス、 画用紙など	教室	○	こすって出た形や色から感じたこと	知 クレヨンやパスのいろいろな表し方を試すことを通して、そこから生まれる形や色の面白さに気付いている。こすって写したり、塗り重ねたりするなど、いろいろな表し方を試しながら工夫して表している。 思 材料の形や色、大きさなどの特徴をもとに造形的な活動を思い付き、どのように活動するかを考えている。 主 材料の形や色に関心をもち、いろいろな材料の並べ方を試しながら、たのしく取り組もうとしている。

年間指導計画は、年度内に大まかな題材と材料・用具及び評価を決めておき、新年度になってから、いつ、どの題材を、どのように授業するのかについて新しい担任が詳しく話し合うことで、教師が1年間の図画工作の授業に見通しをもてるようにした。

③学習における児童の思考や活動を具体的に想像し作成する指導と評価の計画

ア 指導案形式の検討

学習指導案に示す題材の目標は、題材で重点を置く観点を中心とした一文で表すこととし、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」それぞれについての目標は、題材マップに示すこととして整理した。児童の「発想のきっかけ」についても題材の目標や評価規準等に明示するようにした。

3 題材の目標及び評価規準		
(1) 目標		
手や体全体を十分に働かせ、紙バンドを曲げたり折ったり、組み合わせたりした形や色などを基に、表したいことを見付け、工夫して表す。		
(2) 本題材における評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 図 ホチキスや、両面テープを適切に扱うとともに、手や体全体を十分に働かせ、紙バンドの特徴を生かしているいろいろな曲げ方や折り方を試したり組み合わせたりしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	発 紙バンドの形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、感じたこと、想像したことから表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 鑑 紙バンドの形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	主体的に学習に取り組む態度 紙バンドの特徴を生かして、使えるものや飾るものをつくることに主体的に取り組もうとしている。

また、「評価計画及び評価方法」の項目を新たに加え、どの時間に何をどのように評価していくのかを明確にして授業を計画するようにした。

4 指導と評価の計画 (4時間扱い 本時1/4時)					
観点 \ 時	1	2	3	4	評価方法
知識・技能		◎ 技	◎ 知技		行動観察・対話・表現・記述
思考・判断・表現	◎ 発	○ 発	○ 発	◎ 鑑	行動観察・対話・表現・記述
主体的に学習に取り組む態度	◎	○	◎	○	行動観察・対話

イ 「児童の思考と支援の構想図」の作成

児童の思考を広げる支援をより確かなものにするために、「児童の思考と支援の構想図」を作成した。授業における具体的な児童の思考や活動する姿を想像し、構想の視点を整理することで、指導が児童の実態に即したものになるようにした。また、この構想図はこれまでの学習指導案の「指導と評価の計画」と差し替えて作成することとした。

5 題材における児童の思考と支援の構想図

時間	活動	子供の思考の流れ 雲：児童の思考の例 丸四角：構想の視点 ④：表したいことの発見	指導の工夫
1 2	ためす	<p>提案1：アニメーションをつくってみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> コマ撮りアニメーションの仕組みを知るために、例示を見せる。 アニメーションはグループで作ることを伝える。
3	見付ける	<p>提案2：アニメーションをつくる計画を立てよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動場所によって、どんな工夫ができるか考えさせる。 カメラの位置や役割分担を相談しながら取り組ませる。
④ 5	実現する	<p>提案3：グループの友達と協力して、表したいことをアニメーションに工夫して表そう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計画を実現するために、補助道具を工夫させる。
6	広げる	<p>提案4：友達のアニメーションのよさや、動きの面白さを見付けよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに再生してテーマや工夫について発言させる。 鑑賞して、感想や気付いたことを発表させる。

(2) 手立て2について

【手立て2】

表現と鑑賞を関連させた指導の工夫

①表現と鑑賞を関連させた指導の工夫について

ア 「アートウォッチング」

これまでに引き続き、全学年、どの題材においても「アートウォッチング」に取り組んだ。表現の途中で児童が自発的に友人の活動を鑑賞したり友人と対話したりすることで、自分の見方や感じ方を広げたり、新たな発想や構想、技能の手掛かりを得たりできるようにした。また、「アートウォッチング」に進んで取り組むことができるよう、年度当初の「図工開き」や普段の授業での声掛けを意識的、継続的に行うようにした。

③こまったり、まよったら、友だちに聞いてみよう。



④友だちはどんなものをつくっているのか見に行こう。



「図工開き」でのスライド資料

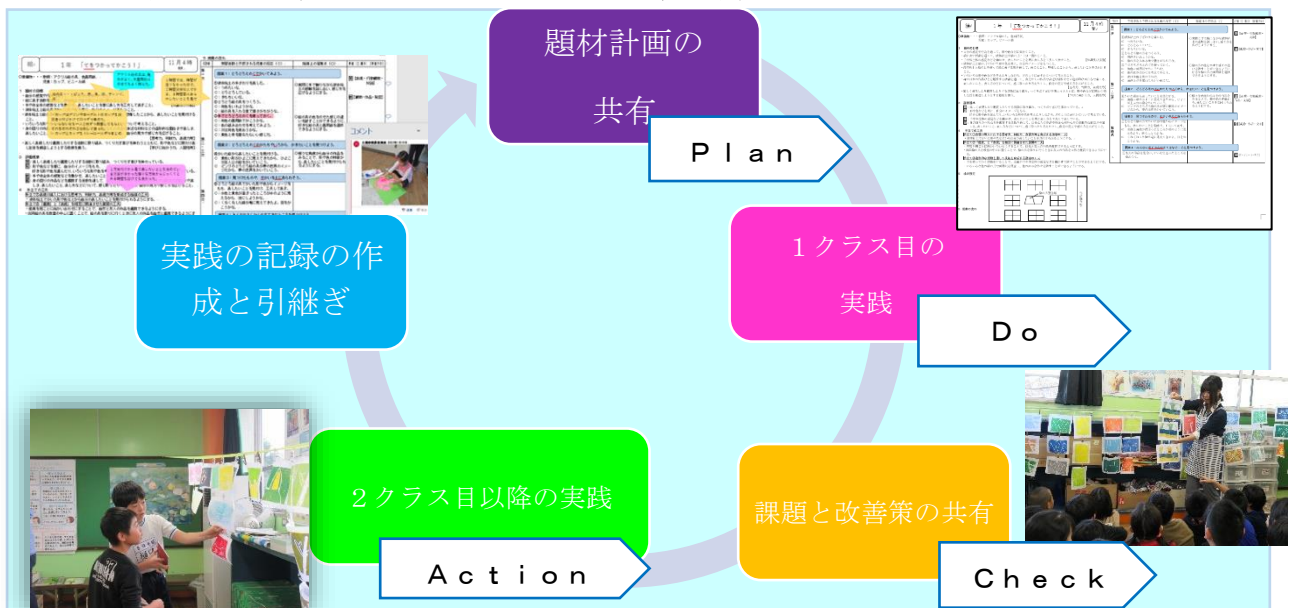
イ 場の設定の工夫

表現の途中で友人の作品を自然に鑑賞したり、自分の表現を振り返ったりできるような場の設定の工夫に取り組んだ。児童の動線を意識した材料・用具の置き場の工夫や、児童の隊形、製作の方法の工夫等、題材に応じて設定し、表現と鑑賞を往還しながら活動することができるようにした。※資料3

(3) その他の授業改善の取組

①授業研究の工夫について

ア 題材計画と振り返りを基にした学年での授業研究



題材毎に「題材マップ」、「題材計画」、「図工ノート」、「鑑賞カード」、「題材の振り返り」を作成した。図画工作科の授業を受け持っている教員全員が一人一題材、作成を担当した。作成した資料を基に、各学年の教員が共通理解を図り、授業を実践していく。1クラスが授業を実践した後、その反省を生かし、次のクラスが授業していくようにPDCAサイクルで授業改善をしていくようにした。さらに、すべての学級が授業を終えた後、改善していったことをまとめた。題材計画は「計画」と「実践」に分けて作成した。それぞれ色分けし、次年度に生かせるように記載した。参考写真も載せることで、場の設定や活動の様子が分かるようにした。作成したデータを題材毎にまとめ、次年度の教材研究に生かせるようにした。

絵 6年 「クローズアップで見える新世界」 7月5時間

○準備物-教師：デジタルカメラ、写真を見ながらモニター、四つ切り画用紙、ローラー、インク刷毛、へら、線ブラシ・線（スパッタリング用具）
児童：水彩用具一式、その他の画材（クレヨン、カラーペンなど）

1 題材の目標
身近な場所を描写した画面のバランスや色の鮮やかさを見分け、工夫して表す。

2 評価指標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	評価方法
1 身近なものの形や色に目を向けること。バランスや色の鮮やかさを理解している。	描写した画面のバランスや色の鮮やかさなどの造形的特徴を基に、自分のイメージを表現しながら主題を表現している。	○	行動観察・対話・写真
2 図画やクレヨン、ローラーなどの特徴や経験を生かして、伝えたいイメージの表し方を工夫している。	視しめのある作品を鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や生活の中の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	○	行動観察・対話・表現
3 評価計画（○：指導に生かす評価を行う ◎：全員の学習状況を記録し評価）			

4 研究の手立て

【手立て1：造形活動の準備を進め、表したいことを見付けられる題材の工夫】
・身近なものを描写した形や色を参考に、自分のイメージをもとに、表したいことを見付けられる題材を選ぶ。
【手立て2：表現と鑑賞を関連させた授業】
・教室内にイーゼルを設置し、少し離れたところから作品を鑑賞することで、新たな発想や構想を得るようになる。
・教室の中央に鑑賞用スペースを設けることで、自分の表現に生かせるようになる。
【手立て3：創造的な活動を通じて技能を習得させる指導の工夫】
・ローラーやインク、線ブラシ・線などの様々な画材を用意して、自分の表したいことに合わせて描く。
・鑑賞のために、図工室で実施できず教室で実施する。
・図工室の掲示：実施した学級のほうが多かった。

5 場の設定

- 図工室で活動。
- 4人～5人で班を作り向き合わせで活動することで、自然と友人の表現が目看向きになる。
- 図工室中央に鑑賞用スペースを設けることで、自然と友人の表現が目看向きになる。

2人1組

授業内と授業で活動した児童の反応（授業後）

「もし、こぼれちゃったら、私たちの世界はどうなるの？」と導入し、「こぼれちゃったら」をテーマに、児童が描きだすきっかけとなった。

タブレットで描写した写真を見せる。
○児童のつぶやきを拾い、広げることによって、自分の見方や感じ方を広げることができた。

ワークシートを活用することで、自分のイメージをもつことができない児童の発想の手立てとなった。発想もそれをもとに動員することができた。

自分のイメージを大切にしながら、自分のイメージに合わせて表現方法を工夫して描くことができるように、スパッタリングの道具やローラーなどの画材を用意しておく。【手立て3】
どのようなかたちで表現すると、自分らしいイメージがもてるのか、イメージがもてるように、向きを変えて描くことで、印象が変わることが気づいた。

室の中央に鑑賞用スペースを設けることで、自然と友人の表現方法を鑑賞し、自分の表現に生かせるようになる。【手立て2】
☆教室内にイーゼルを設置し、少し離れたところから作品を鑑賞することで、新たな発想や構想を得るようになる。
☆図工室の掲示物を活用し、これまでに学んだ技法をいつでも振り返ることができるようになる。【手立て3】

授業4：友だちの表し方や工夫を思いつけ話し合おう。

4 作品を見合い、互いの表現方法のよさや工夫、感じたことを話し合う。
C スパッタリングが、水の中のような感じだった。
C 鉄線の接着部分が着目したところがあるかもしれない。
C 絵の具のじんだ色が優しい感じだね。

黄：具体的な準備物

青：よかった点

赤：改善点

授業写真





コメントの追加 [41]

コメントの追加 [42]


コメントの追加 [43]

コメントの追加 [44]

コメントの追加 [45]

イ 授業研究会の工夫



グループは、授業研究会ごとにメンバーを替え、様々な学年の立場から協議できるようにした。



付箋による研究協議

学年の指導案検討

全職員による指導案検討会

研究授業

研究協議会


授業改善についての考察

他クラスでの事後授業

観察する児童をグループごとに分担し、それをもとに協議をする。



事後授業での改善の結果、どのように児童の活動が変容したのかを全体会で共有した。



全教員が共通理解のもと研究に取り組めるよう、校内授業研究会を年間3回（令和3年度は2回）実施した。事前に全教員による指導案検討会を行い、グループ協議の際は、グルーピングを工夫することで様々な立場から協議できるようにした。その中で、学年の取組を全体に広げたり、手立ての有効性について話し合ったりできるようにした。

2 成果と課題（○成果 ●課題）

- 指導案形式を検討し、目標を一文にまとめることで、指導を行う際に重点を置くことがより明確になった。また、「評価計画及び評価方法」を加え、「指導に生かす評価」と「全員の学習状況を記録に残す評価」とを区別して明記することで、どの場面で何を評価するのが明確になった。
- 題材計画を継続して作成することで、資料を蓄積することができた。また、一人一題材の作成を担当することで、教員間での共通理解を一層図ることができた。
- 題材系統表を作成することで、各題材における発想のきっかけや使用する材料・用具について、6年間を見通して授業を計画することができるようになった。
- 発想のきっかけについて、題材系統表や年間指導計画、学習指導案に記載したことで、全教員が発想のきっかけを意識して授業を組み立てられるようになった。
- 題材展開例を簡潔にまとめることで題材全体の学習のイメージや児童の思考の流れを分かりやすく捉えられるようになった。その結果、誰が授業をしても同じように授業を展開できるようにした。
- 「児童の思考と支援の構想図」を作成することで、より具体的に児童の思考の流れを想像して授業をつくるためのツールとなった。
- 題材系統表や題材展開例を日常的に活用するための方法を検討していく。
- 「児童の思考と支援の構想図」の有効性を検証していく。

【1年「ねんどとなかよし」造形】
系統表A
材料や造形的な操作を基にして思い付く

【4年「つながれ、広がれ！だんボール」造形遊び】
系統表A
材料や造形的な操作を基にして活動する

さわってみる



体重を全部かけてこねないと、なかなかやわらかくならないよ。
形がかわっておもしろい！

考える



どんな段ボールをどのようにつなげたら、楽しいひみつきちが作れるか

思い付く



のばしてみたいな。どこまでのばせるのかな・・・

思い付く



段ボールを立てたら、家の壁みたいになったよ。小さな窓をつかって、外をのぞけるようにしてみよ

活動する



のばしていったねんどをくるくるまるめてみたよ。

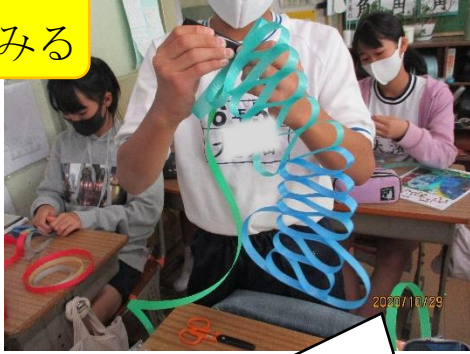
活動する



段ボールをたくさん組み合わせたら、中を通ることができるトンネルができたよ。中には、いろんな部屋もつくったよ。

【6年「カラフルバンドで」造形遊び】
系統表 A
材料や造形的な操作を基にして活動する

やってみる



PPバンドとホチキスで、どんなことができるか試してみよう。丸めたり、折ったり、ねじったり・・・。

思い付く



今度はみんなでやってみよう！一人ではできなかったこともできるね。「こんな感じにしていきたいね。」が見付かったよ。

活動する



つなげていくと、どんどんイメージがわいてきた！「困難の中に、喜びがある感じ」を表現しよう。



【1年「さらさら だろだろ いいきもち」造形】
系統表B
場所・環境を生かして活動する

【1年「いろいろならべて」造形遊び】
系統表B
場所・環境を生かして

さわってみる



白い砂はさらさらだね。
黒い砂はちょっとしっとりして
いるよ。手を砂に埋めてみよう。

さわってみる



いろいろな色があるね。
じゃらじゃら音がするね。
色ごとに分けてみたいな。

思い付く



深い穴を掘りたいな。
固めるとお団子ができるよ。
山を作ってトンネルを通そ
う。

思い付く



色に分けるときれい。
並べてみよう。
花・虹・魚・・・いろいろ作れそ
うだよ。

活動する



水を入れると池ができるね。
みんなの山や池をつなげようよ。
道を作ってつなげていけば楽しそ
う！

活動する



色に分けてつなげていくと、虹みた
い！どんどんイメージがわいてき
た！たくさん並べてみよう。

※【2年「ちきゅうからのおくりもの」】
系統表B
場所・環境を生かして活動する

見る・感じ



きれいな葉っぱ見つけたよ！
同じ葉っぱでも色がちよつとず
つちがうな。
たくさん集めるときれいだよ。

思い付く



束にして紐でまとめてみようかな。
紐でつないでいったらどうなるか
かな。
友だちと協力してつくりたいな。

活動する



たくさんあつめてもぐってみたよ。ふわ
ふわしていて気持ちがいいな。
きれいな落ち葉を紐でつないで長くして、
うんていにひっかけてみたよ。

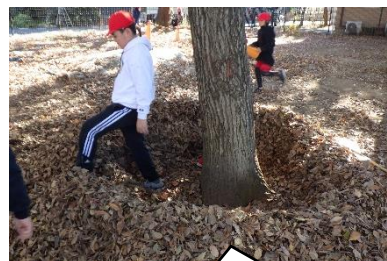
【5年「地球は大きなキャンバスだ！」造形】
系統表B
場所・環境を生かして活動する

やってみる



落ち葉をたくさん集めてみよう。
集まった落ち葉で何を作ること
ができるかな？友達はどんなイ
メージを思い浮かべているだろ
う？

思い付く



木の周りに落ち葉を積んでみた
よ。「お城みたい。」「山の噴火口
に見える。」・・・これからどうし
ていこうかな？もっと落ち葉を積
もうかな。

活動する




枝を使ってトンネルみたいにしたよ。スズ
ランテープを置いてみたら山から流れる川
のようになった。いろいろ試すとどんど
んイメージが湧いてきたよ。友達のも見たい
な。

【1年「さわってかくのきもちいい!」絵】
系統表C
材料や用具に触れながら思いついたことを表す


※【1年「くるくるぐるーり」絵】
系統表C
材料や用具に触れながら思いついたことから表す

さわってみる




液体粘土は、とろとろしているよ。指でのばしてみたいな。手で大きく塗ってみるのも楽しそうだね。

見付ける




好きな色を一つ作ってみよう。何色にしようかな。たくさんいれると、色が濃くなるね。色を重ねてみたいな。

つくる




指でのばすと自由に線がかけるね。僕の赤色は何に見えるかな。友達の色は竜巻みたいだ。もっとたっぷりつけたらどうなるんだろう。

やってみる




体全体を使って、くるくるやぐるーりをかいてみよう。いろいろな色の画用紙に、いろいろな色のくるくるやぐるーりを試してみたよ。

見付ける



ぼくのくるくるは、なんだかカラフルで楽しいな。ぺろぺろキャンディーみたいだ。友達の色は、赤くて大きいからトマトみたい。

つくる

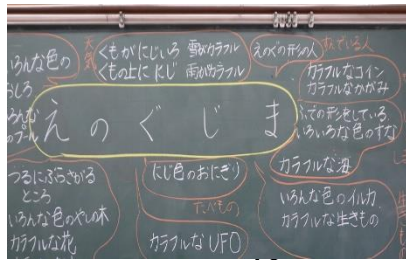


たくさんのぐるーりを重ねてみたよ。遊園地のイメージだから、ジェットコースターや自分をかき足してみたいな。自分は、クレヨンでかこうかな。

※【2年「えのぐじま」絵】
系統表C
想像したことから表す

【3年「にじんで広がる色の世界」絵】
系統表C
材料や用具に触れながら見付ける

出し合う



えのぐじまってどんなところかな。おすすめのポイントは、どんなところだろう。

やってみる



水の量を調整しながら、いろんなにじみをつくってみよう。水たまりに絵の具を垂らしていくと、自分の好きな色のにじみができてきたよ。

見付ける



えのぐじまには、どんなものがあるだろう。はえている木は、どんな木かな。

見付ける



わたしのにじみは、やさしい色になったよ。緑の草原みたいできれいだな。友達のにじみは、赤と黄色で暖かい感じがするよ。

つくる



ともだちのを見ていたら、かきたしたいことを思いついたよ！
ここには何があるだろう？

つくる




たくさんのにじみを重ねてみたよ。海のイメージだから砂浜の色を黄土色にしたけど、もう少し明るい色にしたくて黄色もたしてみたよ。生き物に赤色を入れたらきれいになるかな。

【5年「出てきた!すてきな形、色」絵】
 系統表C
 材料や用具に触れながら思いついたことを表す題材
 (様々な表現を試しながら)


【6年「いろどり、いろいろ」絵】
 系統表C
 材料や用具に触れながら思いついたことを表す題材
 (様々な表現を試しながら)

ためす




洗濯のりをぬった画用紙に、コンテやチョークをけずっていくよ。画用紙を傾けるときれいな形や色が出てきたよ。

見付ける



けずっていった形や色から天の川をイメージしました。周りに何を書いていこうかな。

表す



海のイメージを表そう。小さな生き物は、カラーペンでつけて足していこう。楽しい海の世界をかいていきたいな。

ためす



スタンプやローラーで色をつけてみると、何か見えるかな?色砂で模様をかいてみたら面白い形が見えてきた!

思い付く



砂と絵の具を混ぜて垂らしてみたら色が踊っているような世界になった。この世界をチョークの粉を使ってもっとカラフルにしていこう。

表す



白いボンドと砂で深海に泳ぐ魚を表せた。海の底からだときっと太陽はこんな風に見えるだろうな。友達はどうな表し方をしたのかな、見てみたいな。

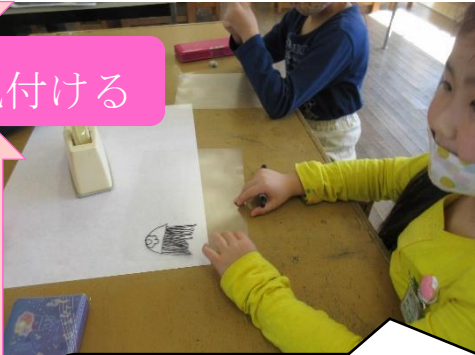
【2年「うつつして 見つけて」】
系統表D
版画の特徴から思い付いたことを表す

知る



一つの版でたくさん刷れるんだね。
刷る場所によって感じが変わってくるな。

見付ける



クラゲをたくさん刷りたいな。
画用紙の大きさはこれくらいだから、この大きさでよさそうだ。

つくる



向きは、こんな感じでいいかな。つぎはどこに刷ってみようかな。
色を変えたらどうだろう。

【3年「でこぼこもよりのなかまたち」絵に表す活動】
系統表D
版画の特徴から思い付いたことを表す

やってみる



プチプチのもようにしたらおもしろそうだな。おひれにつけてみよう。

見付ける



はちのもようは、しましまになるようにしよう。ネットの向きを変えたら、しましまもようができそうだな。

つくる



魚のひれを、場所によってちがうもようにしてみたよ。刷ってみたらどうなるかな。

【1年「すきなもののいっぱい」】
系統表E
生活経験から表す

【2年「大きくそだてびっくりやさしい」】
系統表F
想像したことから表す

話し合う



わたしは、およぐのが好きです。
ぼくは、ブドウが好きだよ。
みんなそれぞれすきなものがたくさんあるね。

話し合う



ほうれん草って、葉っぱがたくさん重なっているんだね。「ミニ自分」が葉っぱでかくれちゃったよ。

見付ける



わたしは何をかこうかな。
友だちは何をかいているのかな。

見付ける



ブロッコリーが大きくそだったら、木みたいになりそうだな。ブロッコリーにツリーハウスをたててあそびたい！

つくる



つぎはどこにかこうかな。
どのむきでかこうかな。

つくる



きゅうりのボートに乗っていたら、ザッパーンって波がきたんだ。どうしてかっていると、大きなクジラが近くを泳いでいて、大きな波がたったからなんだよ。

【4年「へんてこ山の物語」絵】
系統表F
想像したことから表す

※【6年「墨のうた」絵】
系統表F
想像したことから表す

話し合う



「へんてこ山」ってどんな山？クラスのみんなで話し合いながらイメージを広げます。みんなのイメージはそれぞれで面白い！

感じる



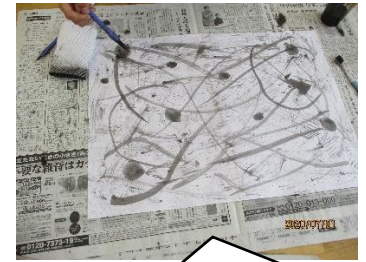
音楽を聴きながらかいてみよう！目に見えない「イメージ」も、絵に表すことができるね。

見付ける



ぼくの「へんてこ山」はどんな感じにしようかな。形は？色は？どんな生き物が住んでいるのかな？アイデアスケッチにまとめます。

見付ける



「夏の暑さ」「ダンスや踊り」「花の香り」・・・自分の表したい「イメージ」を見付けたよ。

つくる



ぼくの「へんてこ山」はどうやって表そうかな？今までつかったことのある材料や用具を工夫して表してみよう。

つくる



濃さの異なる墨をたくさん重ねたよ。勢いよく筆を動かしたり、墨を散らしたりして、「花火の音」のイメージを表現しました。

【わかば学級「われら わかば探検隊」絵】
系統表F
想像したことから表す

見る・感じ



世界中のいろいろな景色を見てみよう。とても素敵な世界。どんな世界を探検したいかな、想像しよう。

見付ける



想像した世界を描いてみよう。大きなキャンパスだから世界が広がるね。友達と合体して新しい世界を見つけたよ。

つくる



探検してみたい世界はお菓子の世界。いろんな色を使ってカラフルなあめやアイスがたくさん描こう。本当にあったら楽しそうだな。

【2年「すけるんたんじょう」立体】
系統表G
材料や用具に触れながら思いついたことを表す

さわってみる



くるっとひねると面白い形ができたよ。いろんな切り方を試してみよう。

見付ける



切った形がくちばしに見えてきた！色をぬったらもっとくちばしみたいになったよ。鳥のくちばしにしていこうかな。

つくる

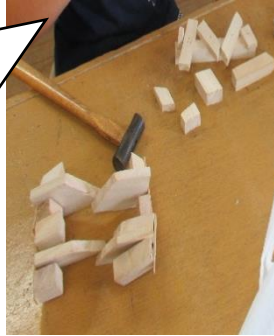


翼はカラーセロハンで赤くしようかな。素敵な帽子や飾りをつくっている友達もいるな。

※【4年「とんとんつないで」立体】
 ~世界にひとつだけの、くねくね動く不思議な生き物を作ろう~
 系統表G
 材料や用具に触れながら思いついたことを表す

やってみる

まずは、板をいろいろな形や大きさに自由に切ってみよう。どんな木切れができるかな。



見付ける



「つなぎ」を使って、木切れを自由に組み合わせてみよう。くねくね動く様子や組み合わせた形から、不思議な生き物の形がどんどん見えてきたよ。

つくる



もっと木をつなげて楽しい動きをつくったり、不思議な動物になるように木をつけたしたり飾りつけをしたりしてみようかな。

【わかば学級「わかば村の仲間たち」立体】
 系統表G
 材料や用具に触れながら思いついたことを表す

やってみる



木材をいろいろな形に切ってみよう。はじめて、のこぎりを使ったよ。友達と協力して、しっかり押さえていろいろな大きさや形に切っていくよ。

見付ける



自分で切った木切れを組み合わせたら、ペンギンができそう。くちばしや羽になるところをもう一つずつ切ってみようかな。

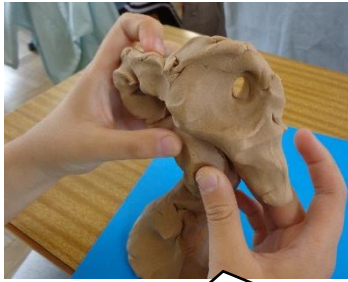
つくる



ぼくは、首の長いキリンをつくったよ。体の模様には、黄色いビーズを使おうかな。友達はクワガタの角の部分を針金でつないで動くようにしてあって、いいアイデアだと思ったよ。

【4年「つけて、のぼして、生まれる形」絵】
系統表G
材料や用具に触れながら思いついたことを表す

さわってみる



ねんどは、のぼしたり丸めたり、ちぎったりひねったり、いろいろなことができるね。

見付ける



のぼしたり、くっつけたりするうちに、おもしろい形ができたよ。生き物の足や手に見えてきたから、不思議な動物を作ろうかな。

つくる



体は、粘土をまるめてのぼして作ってみよう。体を曲げて動いている感じにしようかな。角やしっぽもつけてみよう。

【4年「願いの種から」立体】
系統表H
想像したことから表す

話し合う

やってみみたいことや、なりた
いものはありますか？



見付ける



・先生は、作品にどんな願いをこめたのかな？
・「願いの種」は、どんな組み立てで作ればいいかな？

つくる



将来お花屋さんになりたいから、じょうろを種にしよう。じょうろから花をたくさん咲かせたいな。

【5年「みんなでたのしく、『ハイ、ポーズ』粘土】
系統表H
想像したことから表す

やってみる



実際にポーズをとってみよう。面白い動きや形はどんな感じかな？体全体を使って、ダイナミックな動きやポーズを試してみよう。

見付ける



立たせるために手足は太く作った方がいいな。ひねったりねじったりすると、動きが出てきたぞ。バランスをとるために、足を広げよう。

つくる



片足で立たせるのが難しかったけど、虫取り網も支えにを使って上手に立たせられた。体の傾きがイメージ通りに作れたな。友達はどんなひねり方やねじり方をしているのか見たいな。

【わかば学級「マイモンスター」立体】
系統表H
想像したことから表す

やってみる



こんなモンスターがいいな。色は僕の好きな黄緑のモンスターにしよう。

見付ける



黄緑の部分はこのくらいの粘土が必要だな。羽根はもっと大きくしたほうが格好いいな。足を太くしないと立たないな。

つくる



中にカプセルを入れて、丸い形を作ったよ。はさみを使って針の尖ったところを表現してみよう。

【1年「うきうきボックス」工作】
系統表 I
飾るもの・使えるものをつくる

さわってみる



集めた箱は、どんな形をしているかな。四角い形、筒の形、いろいろあるね。この箱は、どんなふうにかくのかな。

見付ける



箱の開き方が、宝箱みたいだ
なって思ったよ。中は、開けて
びっくりするようなものに
したいな。

つくる



前の時間に、表したいものを見付け
たよ。表したいイメージに合うよう
に、おうちで材料を探してきた！周
りをテープで囲むと、素敵になりそ
うだな。

【1年「チョッキンパツでかざろう」工作】
系統表 I
飾るもの・使えるものをつくる

やってみる



折り紙を折って切ってみよう。どんな折り方ができるかな。どんな切り方ができるかな。

見付ける



開いてみると・・・おもしろ
い模様ができ！もっと切
り込みを入れるとどうなる
んだろう。

つくる



お気に入りのチョッキンパを重
ねたりつないだりしてみよう。何
色と何色を合わせようかな。どん
な向きに重ねたらすてきかな。

【2年「くっつきマスコット」工作】
 系統表Ⅰ
 飾るもの・使えるものをつくる
 (仕組みから思い付いたものをつくる)

ためす



マグネットってなんだろう？マグネット同士がくっついた！机の横や、黒板にもくっついたよ。そういえば、お家の冷蔵庫にもくっついていたな。

見付ける



マグネットと、紙粘土を組み合わせ、どんな作品をつくらうかな。粘土をこねながら考えます。

つくる



マグネット同士がくっつく仕組みをつかって、ネコとネズミが追いかっこするおもちゃをつくるよ。ネコの鼻と、ネズミのおしりにマグネットをくっつけるんだ。

【わかば学級「カラフルうちわ」工作】
 系統表Ⅰ
 飾るもの・使えるものをつくる

やってみる



お花紙をちぎったり、はさみで切ったりして、うちわの骨にのせてみよう。何色を使おうかな。どんな形にしようかな。切つてあるものも使ってみよう。

見付ける



ぼくはトランプの形にしたいな。だから、白と黒と赤を使おう。この形は、何だかこんぶみたいでしょう。大きな魚をつくらうかな。

つくる



黒色の目をつけたいんだ。やわらかいお花紙を切るのは大変だなあ。友達の赤いうちわは、強そうだな。白と緑の組み合わせもきれいだね。

【1年「ふわふわ、ゴー！」工作】

系統表 J

遊ぶもの・仕組みから思い付いたものをつくる

【3年「トントンくぎ打ち、コンコンビー玉」工作】

系統表 J

遊ぶもの・仕組みから思い付いたものをつくる

ためす



うちわであおぐと、スチレン容器はどんな動き方をするかな。スーッと滑った！くるくる動いた！

ためす



けっこう早くビー玉が落ちてしまうな。もっと壁をたくさんつくらないといけないな。

見付ける



どんなおもちゃにしようかな。動き方や、スチレン容器の形から、容器を切ったり、材料をつけたりして見付けます。

見付ける



釘の数を増やして、ギザギザのコースもつくろう。ペットボトルやビーズを間に入れると、クルクル回っておもしろいかな。

つくる



UFO なら、もっとここにこうしてみたらどう？時には友達のアドバイスに耳を傾けながら、完成！可愛くてくるくる動く UFO だよ。

つくる



モールやリボンもつけてコースを増やしたり、途中で二股に分かれるコースをつくったりしてみよう。小さい釘でミニコースもつくってみよう。

イーゼルの設置

教室にイーゼルの設置しておいた。児童は、かいている途中の作品をイーゼルにおいて、遠くから鑑賞し、「もっとこうしよう。」と新たな発想を得ていた。

また、友人と一緒に置いた絵を鑑賞することで、自然と会話が生まれたり、友人の作品から発想を得たりもしていた。



鑑賞台の設置

図工室や教室に鑑賞台を設置し、つくっている途中の作品を置いて、いろいろな角度から見られるようにした。

ろくろを鑑賞台にして回すことで、自分のつくっているものを後ろから見たり横から見たりすることができる。児童は次の活動を思い付いたり付け加えたいものを見付けたりしていた。



鑑賞ボックス

4年生で学習する「ゆめいろらんぷ」では、鑑賞ボックスを用いて授業を行った。鑑賞ボックスの中には黒い画用紙が貼ってあり、ランプに映る光や影の様子を確認することができる。児童達は、ランプの周りに付け足す材料の形や色の組み合わせをいろいろと試しながら、自分だけの「ゆめいろらんぷ」づくりに取り組んでいた。



作品つる一す

図工室内に紐をはり、紐の両端にクリップをつけたものを児童一人につき一つ用意した。作品を吊るしながら両手で活動をしたり、回転させたりして様々な方向から作品を見ることができるようにした。

吊るした作品を見て、次につける場所やバランスを考えながらつくり進めていた。また、友達がつくっているものも見やすく、アートウォッチングをしながら自分の作品に生かしていた。



つるして乾かす

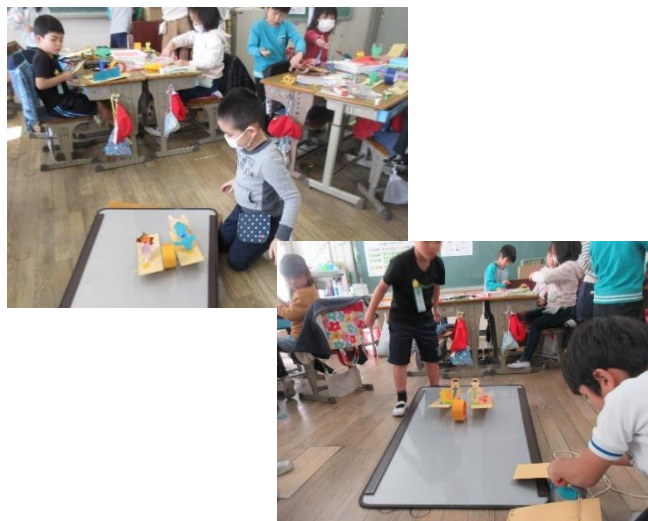
版画の学習では、図工室内に紐をはり、刷り上がった作品を吊るして乾かすことで、表現しながら自分や友人の作品を自然に鑑賞することができるようにした。

自分や友人の作品を鑑賞することで表現したいことを見付けたり表現したいことに近付けたりするきっかけとなった。



試す場の設定

1年生の「おさんぽとことこ」の授業では、教室の中央に坂道をつくり、児童がつくっている途中の作品で遊べる場にした。児童は、友人とつくって遊んでを繰り返しながら、楽しく表現していった。



つくりながら飾る

1年生の「チョッキンパツでかざろう」の授業では、つくった作品を1つずつ窓際につないでいった。つくっては飾りを繰り返していくことで、児童は表現と鑑賞を関連させながらつくっていった。



学習者用端末の活用①

作品を身に付けたときの様子を確認できるよう、学習者用端末のカメラ機能を鏡として使えるように何台か準備した。児童は、製作途中の作品を身に付けて学習者用端末を確認し、「おもしろい帽子ができてきたよ」「次は何を付け足そうかな」など、楽しみながら意欲的に作品作りに取り組んでいた。



学習者用端末の活用②

5年生の「みんなで楽しく、『ハイポーズ』」の授業では、自分のお気に入りのポーズをした一瞬を写真に撮った。撮った写真をついている途中に鑑賞できるように、図工室の中央に学習者用端末を置く場所を設定した。児童は、必要に応じて一瞬の動きの特徴を確認しながら、イメージを形にしていった。



絵の具の設置場所の工夫①

共同絵の具を使う際、何色もの色のコーナーを設置した。児童は画用紙を画板に挟み、使いたい色の場に移動を繰り返しながら思い思いに線を描いていた。移動しながら自然と友達の活動の様子を見ることができるため「いいな。ぼくもやってみよう。」と自分の活動に取り入れようとする姿が見られた。



絵の具の設置場所の工夫②

絵の具を教室の中央に設置した。児童は自分の使いたい絵の具を取りに行き、小さい容器に移し、自分の席に戻っていく。その途中で友人の作品や活動に自然に目が向くようになった。



材料・用具の設置場所の工夫

材料を図工室の中央に設置した。児童は自分の使いたい材料を取りに行き、自分の席に戻る途中で自然に友人の活動に目が向く動線ができた。同様に、中央に作業台を設けることで、活動しながら隣で活動している友人の活動を見るなど、友人の作品や活動に自然と目を止めるようになった。



1枚の画用紙にみんなで表現する

1枚の画用紙にみんなで表現することで、自然と友人の活動に目が向いた。友人の活動から、新しい表現方法を見付けながら、表現していった。また、友人の活動と組み合わせで表現するなどの姿も見られた。



グループごとに輪になって活動する

第二図工室内にシートを敷き、児童が広々と活動できるようにし、グループごとに用具を準備した。

グループの中央に用具を用意し、輪になって活動することで、互いの活動も見やすくなり、真似をしたり、感想を言い合ったりと活動の幅が広がり対話も増えた。互いの技法を見合うことで、新しい模様ができたり、色の重なり気付いたりする児童が増え、作品に生かすことができた。



地域の方の作品を鑑賞する場の設定

校内に、地域の方の作品を鑑賞する場を設定した。児童は、継続的に様々な題材の様々な画材による作品を鑑賞することで、自由に表現していくよさや楽しさを感じていた。



学習評価部

1 取組内容

(1) 振り返りの工夫について

① 図エノート

1～3年生で形式を統一し、4時間以上の題材で振り返りを行った。児童が自分の学習を振り返り、次時の見通しを持つことができるようにした。また、教師は児童の思考を見取り、個に応じた指導や支援ができるようにした。

(例 1年生)

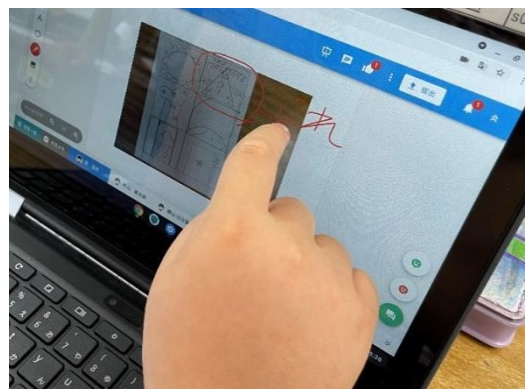
各時間の目標によって振り返りの視点を提示する。

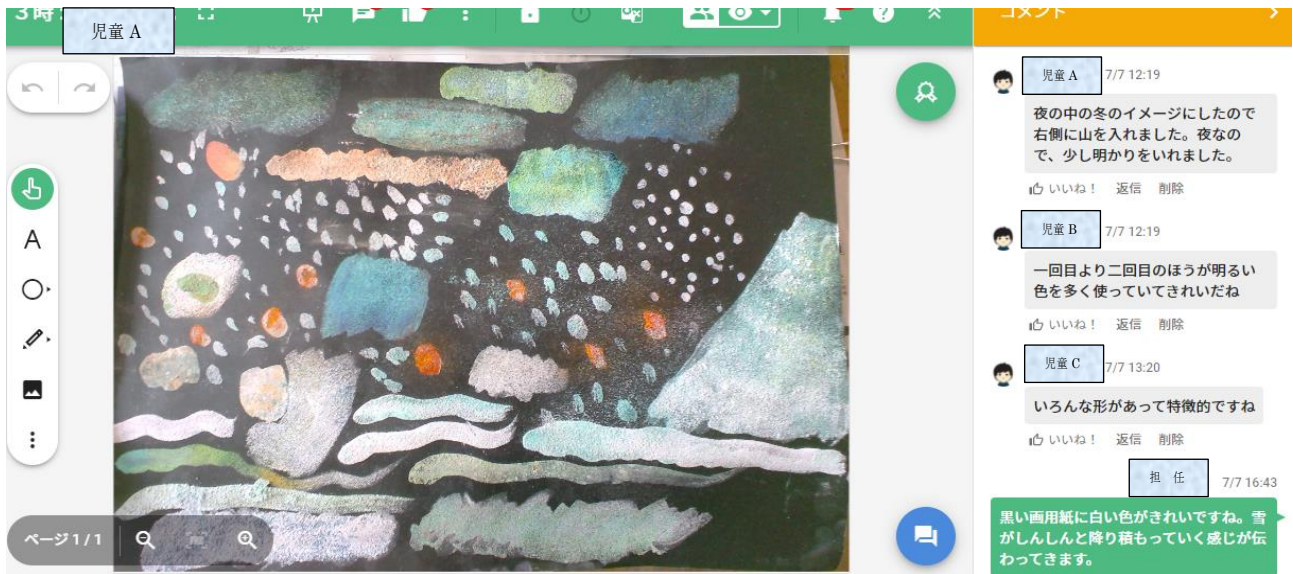
すべての時間において記述するのではなく、題材の中でいつ記述での振り返りをするのかを計画し、設定する。

「おさんぼトコトコ」(こうさくにあらわす)		なまえ()	
◎よくできた ○できた △もうすこし			
じかん	きょうふりかえること	たのしくかつどう	きょうのアイデアやくふう・これからやりたいことなど
1	うごくくみをたのしくつくりましたか。	◎ ◎	おす"がしかたけ"どたのしかた
2	うごきを見ながら、つくりたいものを見つけましたか。	◎ ◎	これかいいよかおす"きたいて"ど
3	見つけたことをもとに、いろがようしのかたちやいろ、くみあわせなどをくふうしましたか。	◎ ◎	おす"山をありがとう"にした。
4	ともだちのさくひんでたのしくあそびましたか。	◎ ◎	

② eポートフォリオ

4～6年生は振り返りを学習者用端末(まなびポケット内「schoolTakt」)で行った。フォーマットを作成し、写真とともに振り返りや今後どうしていきたいかを記入させた。教師は児童の思考をより一層見取ることができるように、また、児童は自分の作品の変容を見取ることができるようにした。共同閲覧モードやチャット機能を使用することで、互いの作品を見合ったり、友人と意見を交流したりし、発想を広げることができるようにした。





③ 鑑賞・振り返りカード

全学年で形式を統一し、題材の最後に鑑賞と活動の振り返りを同時に行えるようにした。観点別の振り返り（◎、○、△）に加え、教師が立てた手立てが効果的であったのか児童に尋ねるアンケート欄も設けた。図工ノートとともに画用紙に貼り、蓄積することができるようにした。（資料1）

（2） 評価の工夫について

① 「評価する児童の姿」表の作成

児童のどのような姿が A（十分満足できる児童の姿）、B（おおむね満足できる児童の姿）、C（努力を要する児童の姿）評価なのかを観点別に表にまとめて整理し、具体的な姿が明確になるようにした。また、C 評価の児童を B 評価に引き上げるために必要な支援も記入した。短文にしたり、ポイントとなる言葉に下線を引いたりし、見やすくなるよう工夫した。（資料2）

2 成果と課題（○成果●課題）

- 図工ノートやeポートフォリオを活用することにより、一人一人の児童をより細かく見取ることができた。
- eポートフォリオを活用することにより、写真とともに振り返りを行うことができ、児童は自分の作品の変容を見取ることができた。
- 鑑賞・振り返りカードのアンケートと授業中に見取った児童の姿を基に、手立てが有効であったかを考察することができた。
- 「評価する児童の姿」表の作成をすることにより、本時で目指すべき児童の姿が明確になり、どのような支援をしていけばよいか学年で事前に考えることができた。また、全教師が同じ視点で評価をすることができた。
- eポートフォリオについては、教師、児童ともに ICT に関する知識や技能に個人差があるため、他教科に渡り今後も積極的に活用し扱いに慣れることが必要である。
- 「評価する児童の姿」表の作成には労力を要するため、毎年少しずつ作成し、確実に引き継いでいく必要がある。

鑑賞の視点

各学年の鑑賞の視点に沿って提示する。

名前

各学年の共通事項Aを参考に題材の特徴に合わせて提示する。

- ① 友達の作品の「よさ」「おもしろさ」「美しさ」を見つけよう。
- ② どんなところがいいなと思ったか、組み合わせたときの感じ、木の切り方や組み立て方、見立て方、奥行き、動き、バランスなどに注目して書きましょう。
- ③ どうしていいなと思ったか、イメージしたことをもとに理由も書きましょう。

つくった人	さん	題名	捉えた形や色など イメージを関連させる。

つくった人	さん	題名	

主体的に学習に取り組む態度に関わる項目（低・楽しく、中・進んで、高・主体的に）

学習を振り返って（◎よくできた・○できた・△あまりできなかった）

組み木パズルを主体的につくりましたか。	発想・構想に関わる項目	◎ ・ ○ ・ △
切り分けた木を組み合わせたときに、アイデアが生まれましたか。	技能に関わる項目	・ △
きりや電動系のこを使って、かきつきをつくることができましたか。		◎ ・ ○ ・ △
板の切り方や組み立て方を工夫することができましたか。	主体的に学習に取り組む態度「作りだす喜び」に関わる項目	△
自分や友達の作品のよいところを見つけましたか。	鑑賞に関わる項目	◎ ・ ○ ・ △
最初に工作用紙で組み立ての練習をしたことは、その後の木の組み立てに役立ちましたか。		はい・いいえ
電動系のこの使い方をテレビで流していました。作業中にテレビを見ましたか。		はい・いいえ
毎時間席替えをしました。いろいろな友達の作品を見て、参考になりましたか。		はい・いいえ

感想（こだわったところ、くふうしたところ、思い付いたきっかけなど）

作品に込めた思いは、作品カードに書くようにする。 「知識・技能」に関わることについて記述するようにする。	題材計画の上での手立てが有効であったかをはい・いいえで尋ねる。
---	---------------------------------

2年		題材名：「絵のぐを『たらしストーリー』」		
観点・評価規準		A (十分満足できる児童の姿)	B (おおむね満足できる児童の姿)	C (努力を要する児童の姿)
<p>知識・技能</p> <p>知 絵の具をたらすことを通して、そこから偶然生まれる線の形や色の面白さに気付いている。</p> <p>ポイントとなる言葉に下線を引く。</p> <p>技 絵の具やクレヨン、カラーペンに十分に慣れるとともに、絵の具の色の選び方や紙の傾け方、重なりなどを工夫して表している。</p>	<p>知 絵の具をたらすことを通して、そこから偶然生まれる線の形や色の重なりの変化やその面白さに気付き、表現につなげている。【第1・2時】</p> <p>技 線の形を変えられるような傾け方をしたり、重なりを意識して色を選んだりするなど様々な表現を積極的に使い工夫して表している。【第1・2時】</p>	<p>知 絵の具をたらすことを通して、そこから偶然生まれる線の形や色の面白さに気付き、表現につなげている。【第1・2時】</p> <p>B 評価に引き上げるために必要な支援</p> <p>技 絵の具の色の選び方や紙の傾け方、重なりなど工夫して表している。【第1・2時】</p>	<p>知 絵の具を同じ方向にしかたらず、線の形や色の面白さに気付いていない。 →支援：紙の「傾け方」というキーワードを基に、形を変化させたり、色を重ねたりするように声をかける。【第1・2時】</p> <p>技 同じ色や傾け方を繰り返して、表現の広がりが少ない。 →支援：友達の活動を参考にしながら、様々な色や傾け方を試してみるように声をかける。【第1・2時】</p>	
<p>思考・判断・表現 (A 表現)</p> <p>発 偶然にできた絵の具の線の形や色などを基に自分のイメージをもちながら、表したいことを見付け、イメージにそって、形や色などを選んだり、いろいろな形や色などを考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。</p>	<p>・偶然にできた絵の具の線の形や色などを基に、次々と発想しながら、イメージにそって表現している。【第3時】</p>	<p>・偶然にできた絵の具の線の形や色などを基に表したいことを見つけ、イメージにそって表現している。【第3時】</p>	<p>・表したいことが見付からず、活動が停滞している。 →支援：教師と対話をしながら一緒に鑑賞し、表したいことが見付かるようにする。【第3時】</p>	
<p>思考・判断・表現 (B 鑑賞)</p> <p>鑑 偶然にできた絵の具の線の形や色などを基に自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>・自分のイメージをもちながら、自分たちの作品を見て、形や色の面白さや楽しさを感じ取り、形や色などの視点からどうしてそのように感じたのかを明確にしている。【第4時】</p>	<p>・自分のイメージをもちながら、自分たちの作品を見て、形や色の面白さや楽しさを感じ取っている。【第4時】</p>	<p>・自分たちの作品の形や色の面白さ、楽しさを感じ取っていない。 →支援：形や色に注目して見るように声をかける。【第4時】</p>	
<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>態 たらしてできる絵の具の模様から絵に表すことや鑑賞する学習活動に楽しく取り組もうとしている。</p>	<p>・題材全体を通して、継続的に楽しく、夢中になってたらしてできる絵の具の模様から絵に表す学習や鑑賞する学習に取り組もうとしている。</p>	<p>・楽しく、たらしてできる絵の具の模様から絵に表す学習や鑑賞する学習に取り組もうとしている。</p>	<p>・楽しく表現や鑑賞に取り組もうとせず、活動が停滞している。 →支援：一緒に考えながら活動し、対話を通して意欲を引き出す。</p>	

環境整備部

1 取組内容

(1) 図画工作科の授業における教師と児童の共通理解

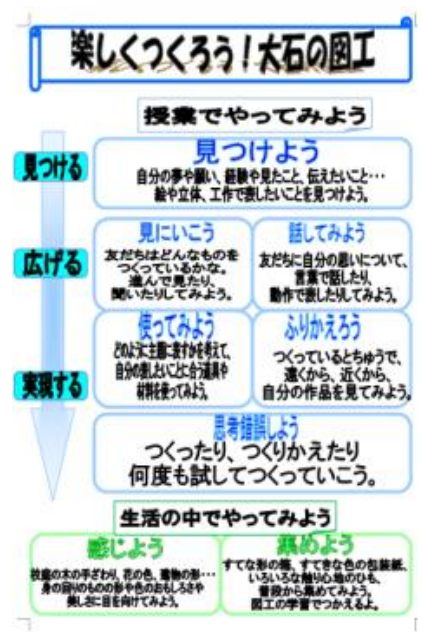
① 「図工開き」

図工を学ぶ意味について考えること、どの学級も図工の授業について同じ考えで進められることをねらい、年度当初 にすべての学級で「図工開き」を行っている。全学年同じ内容だったものを低学年用と高学年用に作り直した。低学年用は読み方も内容も易しいものにした。



② 「楽しくつくろう大石の図工」

全校児童、全職員が共通理解のもと図工に取り組んだり指導をしたりできること、どの題材でも思考の流れが分かることを目的に掲示物を作成し、常掲できるようにした。また新学習指導要領の内容に準拠したものに作り直した。



(2) 校内環境の整備

① 「階段掲示」

自由な発想がわく環境を整えることを目的として、各階段に学校マスコットの「シーオちゃん」と色のグラデーションを掲示した。「シーオちゃん」は各学級に分担し、AaC の時間に協力して、ちぎり絵で作製し、他学級のものと同合わせるとひとつの絵になるようにした。色のグラデーションは青・赤・緑・黄で作成し、上に行くほど濃くなるようにした。同じ「赤」でもたくさんの色の種類があるということがわかる掲示物となっている。



② 「キンモクセイギャラリー」

地域のアーティストの作品を通路に掲示してA a Cの時間に鑑賞をしたり移動の際に自然に見ることができるようになっている。



③ 「安全な環境整備」

図工の授業で起きた怪我の件数をまとめ、その怪我が起きた時の応急手当の方法を掲示物にした。またどういう状況で怪我が起きたか、どんなことに気を付けるかを付箋に書き貼れるようにして注意を呼び掛けられるようにした。



④ 「リサイクルたまたま箱」

自分の思いを自由に表す一助となるよう、家庭から身近材材を集めた。材料を共有できるように種類ごとにケースに集め、図画工作の授業で自由に使うことができるようにした。またSDGsの観点からも、ゴミになりそうなものも再利用できるよさに気付けるような掲示をつくった。



2 成果と課題 (○成果●課題)

- 「図工開き」を低学年用と高学年用でつくり分けることによって、図工の時間の考え方が児童に伝わりやすくなった。また学年が変わっても学校全体が同じ理解のもと図画工作科に取り組めるようになった。
- 「安全な環境整備」の掲示物を作成・掲示することで、図画工作科で起こりやすい怪我が分かりやすくなり、怪我をする前に気を付けようという心構えをもって活動できることが期待される。
- 「階段掲示」を各学級に割り振り、全児童が参加して製作することによって学校への所属感を感じられた。また「シーオちゃん」の掲示と一緒に色のグラデーションも掲示し、「色」に対して児童が階段を昇降する際に自然と触れることができる環境を整えられた。
- リサイクルたまたま箱の身近材料提供の文書を家庭に配布したが、コロナ禍にあるせいか、あまり集まらなかった。児童の発想の幅が広がるように今後も材料を多く集めることが必要であり、継続的な呼びかけを行っていく。
- 「楽しくつくろう大石の図工」を教室に常掲し、職員と児童が共通の意識をもって図工の活動に取り組んでいけるよう、来年度当初に共通理解を図る時間を作る。

研究評価部

1 取組内容

(1) 図工アンケート

図画工作および生活のアンケートを作成、実施した。令和2年度12月から前年度のアンケートに加え、評価の3観点に即した設問を追加したり、表現を変更したりした。アンケート②・③は【知識・技能】に関すること、アンケート④・⑤は【発想・構想】に関すること、アンケート⑥・⑦・⑧は【主体的に学習に取り組む態度】に関すること、⑨・⑩は自己肯定の高さがわかる質問にした。それにより、アンケートを取り、見とる教師側にも児童の実態や評価がわかりやすいように工夫した。

また、全体の数字からだけでなく、気になる回答をしている児童を抽出し、設問同士の相関関係を考察するのもにも活用した。

(2) 抽出児童への手立て等を踏まえて

抽出児童は、各学年アンケート項目の①・⑥・⑦・⑧と自己肯定感が全体的に低い児童を2名ずつ抽出した。各学年を通して抽出児童2名には以下の傾向が見られた。

【児童の傾向】

- 1 自己肯定感の低い児童は、こうしたいという思いがあってもやってみようという勇気がなくできない。
- 2 自分のしたいことをはっきり伝えられない。
- 3 アイデアがありすぐに取り組めるが、常に同じ方法でしか取り組まない。
- 4 アイデアが思いつかない。



【効果的な手立て】

- 1 教師が話を肯定的な態度で聞き、児童にどんなものを表したいのかを言葉にさせることで、話しながら自分の表したいものが定まっていった。また、こうしたいという児童の思いに対して様々な方法を提案し選択できるようにした。
- 2 言語化が苦手な児童に対して、児童同士で導入や鑑賞で意見を伝え合う活動を多く取り入れることで、友人の言葉を参考に表現していく経験を積んでいった。
- 3 アートウォッチングを促すことで、友人の活動を参考にいろいろな技法を選択できるようにした。しかし、このような児童は自分のしたいことが定まっていることが多く、提案をしても自分の方法を貫き通す傾向が大きかった。
- 4 教師が児童の生活体験と結びつけるような言葉がけや模範例を提示した。発想・構想する活動の時には形や色に注目するように声掛けをした。

2 成果と課題

○育成したい資質・能力ごとにアンケートを取ることで、児童の実態を的確に把握することができた。

●数字を追うだけでなく、児童の様子をよく観察することや、児童への聞き取りもより充実させていくことで、児童が必要としている支援を見つけていくことが大切である。

大石小図工アンケート 年 組 名前 () 年 月 日 実施

----- 図工の授業について質問します。 -----

① 図工の授業は楽しい。

4: 楽しい 3: どちらかといえば楽しい 2: どちらかといえば楽しくない 1: 楽しくない

② 図工の授業では、形や色に注目している。 [30]

4: いつもしている 3: だいたいしている 2: あまりしていない 1: していない

③ 自分のつくりたいことに近づけるために、いろいろなやり方をくふうしている。 [37]

(たとえば、「しっかりくっつけるために、テープのほりかたをくふうしている。」など)

4: くふうしている 3: どちらかといえばしている 2: あまりしていない 1: していない

④ つくっているとアイデアを思いつく。 [39]

4: どんどん思い付く 3: だいたい思い付く 2: なかなか思い付かない 1: まったく思い付かない

⑤ アイデアがあっても、どうやってかいたら(つくったら)いいかわからないことがある。 [38]

4: ない 3: あまりない 2: たまにある 1: よくある

⑥ 図工の授業では、なんどもためしたり、はじめはうまくいかなくても、うまくいくように考えたりしている。 [35]

4: している 3: だいたいしている 2: あまりしていない 1: していない

⑦ 友だちの作品や活動のよさを見つけて、自分もやってみることがある。 [37]

4: よくある 3: ときどきある 2: あまりない 1: まったくない

⑧ 自分の活動や、完成した作品にまんぞくしている。 [37]

4: している 3: どちらかといえばしている 2: どちらかといえばしていない 1: していない

----- ここからは、ふだんの生活について質問します。 -----

⑨ 自分には、よいところがあると思う。 [37]

4: 思う 3: 少し思う 2: あまりない 1: まったくない

⑩ 難しいことでも失敗をおそわずに挑戦している。 [37]

4: している 3: だいたいしている 2: あまりしていない 1: していない

Ⅲ 研究のまとめ



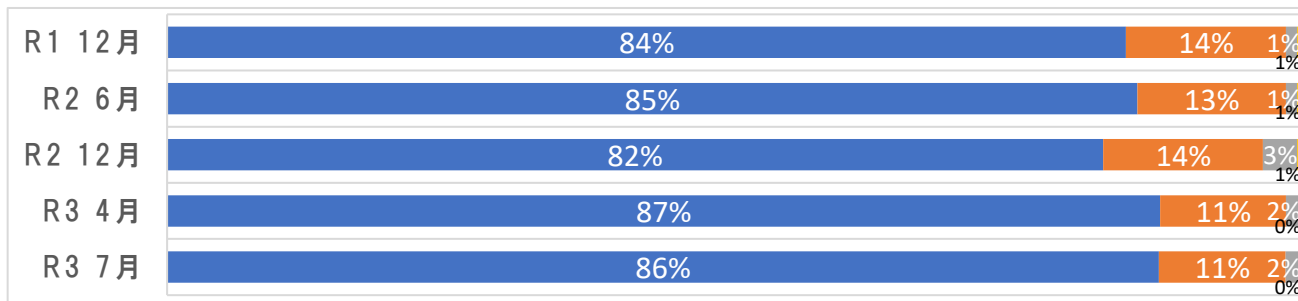
1 研究の成果と課題

1 研究の成果と課題の分析 (○成果 ▲課題)

(1) 学校全体の変容 (対象：全校児童)



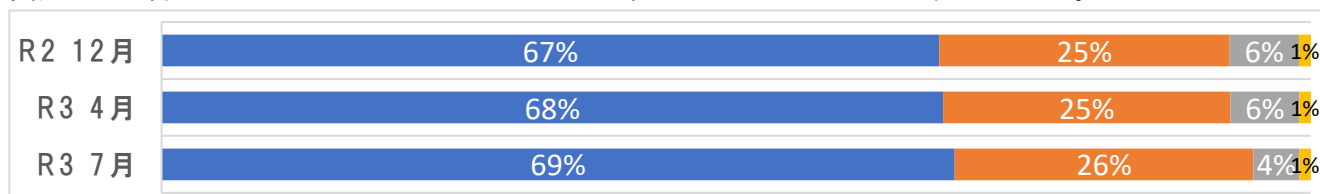
質問1：図工の授業は楽しい



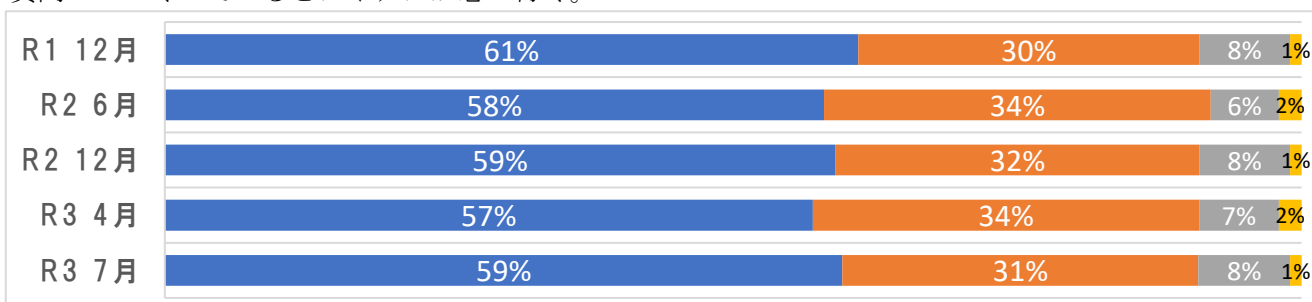
質問2：図工の授業では、形や色に注目している



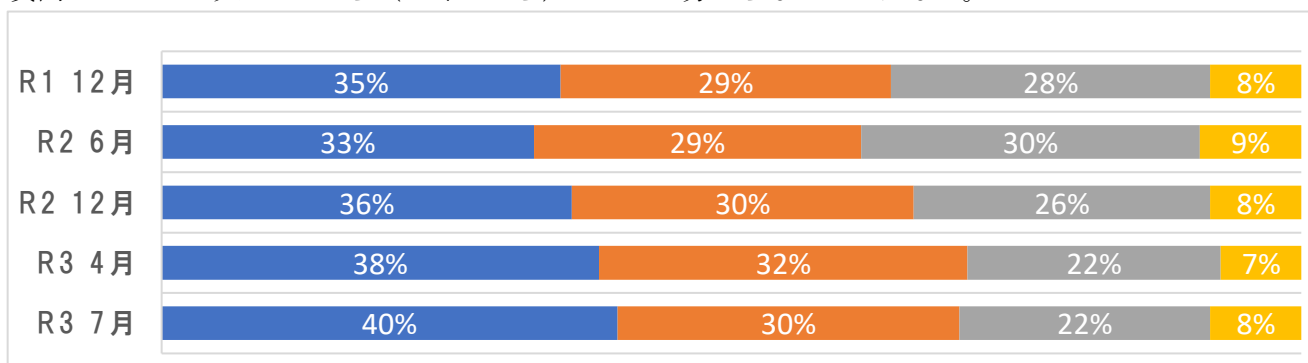
質問3：自分のつくりたいことに近付けるために、いろいろなやり方を工夫している。



質問4：つくっているとアイデアが思い付く。



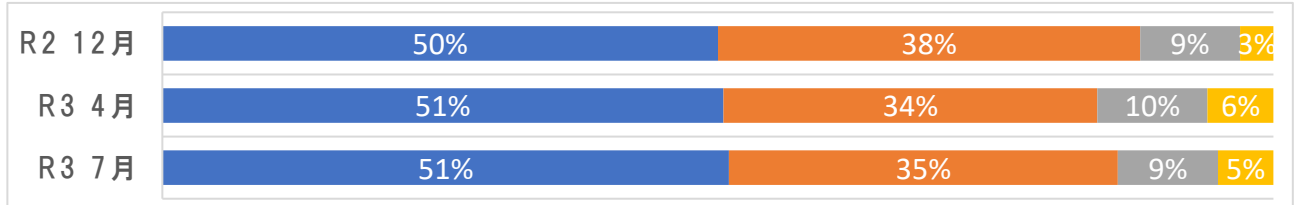
質問5：どのようにかいたら（つくったら）いいのかわからないことはない。



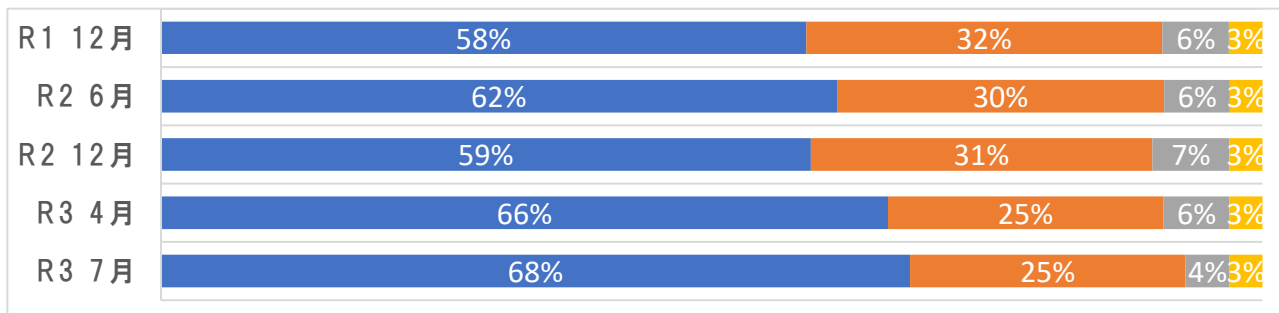
質問6：図工の授業では何度も試したり、はじめはうまくいかなかったても、うまくいくように考えたりし



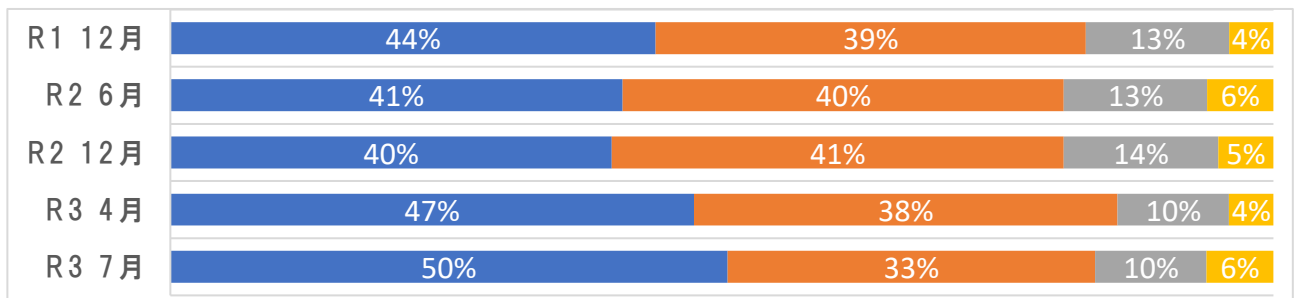
質問7：友達の作品や活動のよさを見付けて、自分もやってみることがある。



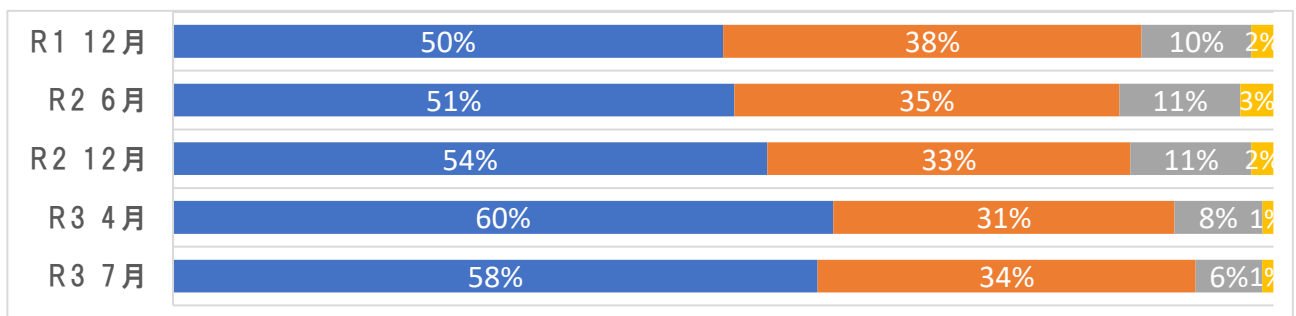
質問8：自分の活動や、完成した作品に満足している。



質問9：自分にはよいところがあると思う。



質問10：難しいことでも失敗をおそれずに挑戦している。



仮説 1「児童が造形的な活動を思い付いたり、表したいことを見付けたりすることのできる導入、どのように活動したり表したりするか思考を繰り返すことのできる展開を工夫すれば、児童は創造的に発想や構想をしていくだろう」に関連する項目について

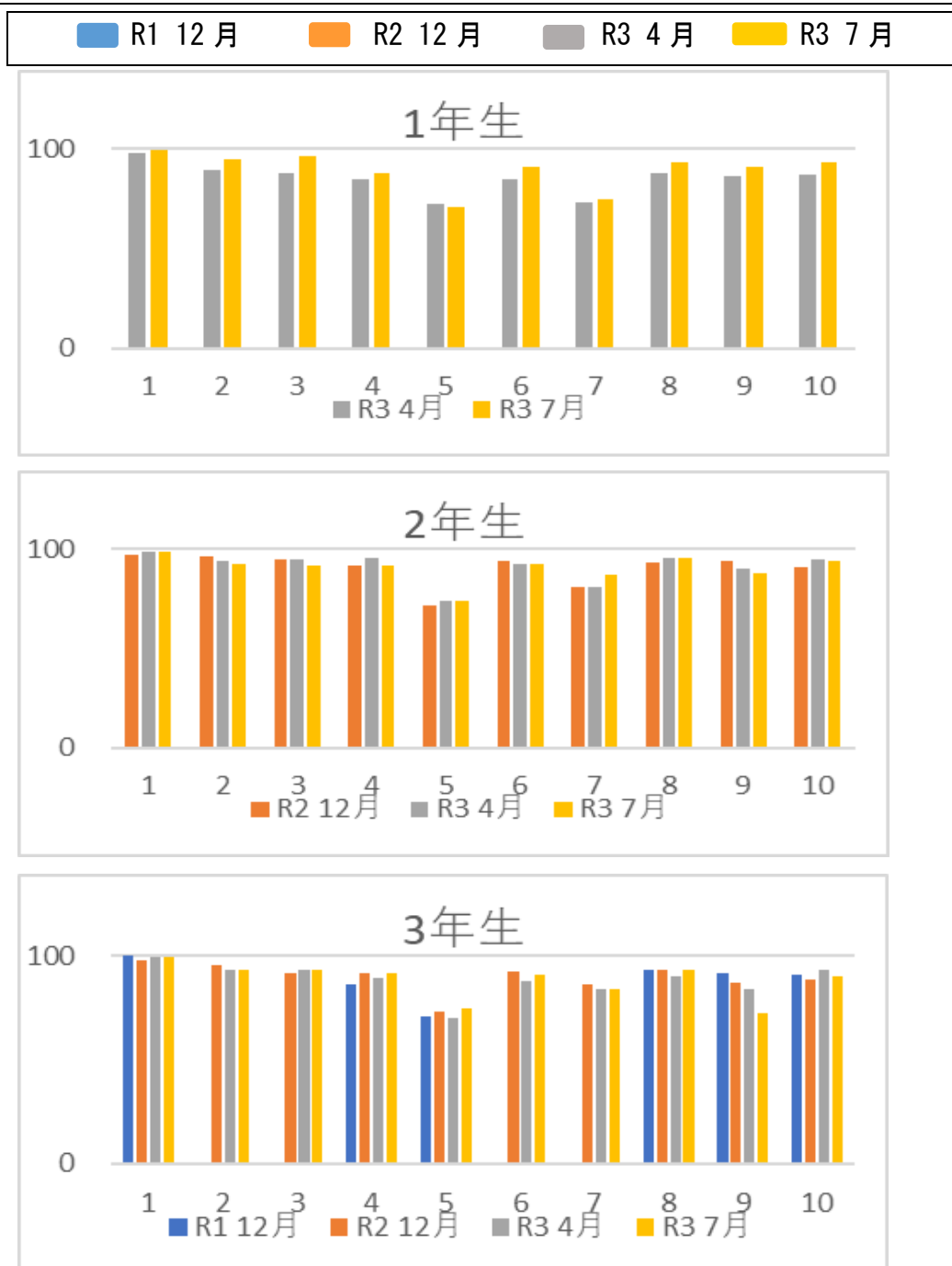
- 「自分のつくりたいことに近付けるために、いろいろなやり方をくふうしている」に対して、肯定的に回答した児童が令和2年12月から3%増え、95%になった。
- 「つくっているとアイデアを思い付く」と回答した児童がどのアンケートも約90%いることから、多くの児童はアイデアをもって取り組んでいることがわかる。
- 「何度も試したり、はじめはうまくいなくても、うまくいくように考えたり試している」に対して肯定的な回答をした児童が93%から95%に増えている。
- 「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」児童が令和元年12月より4%上昇して92%いる。
- ▲「つくっているとアイデアをあまり思い付かない・思い付かない」と回答した児童が常に9～10%いた。

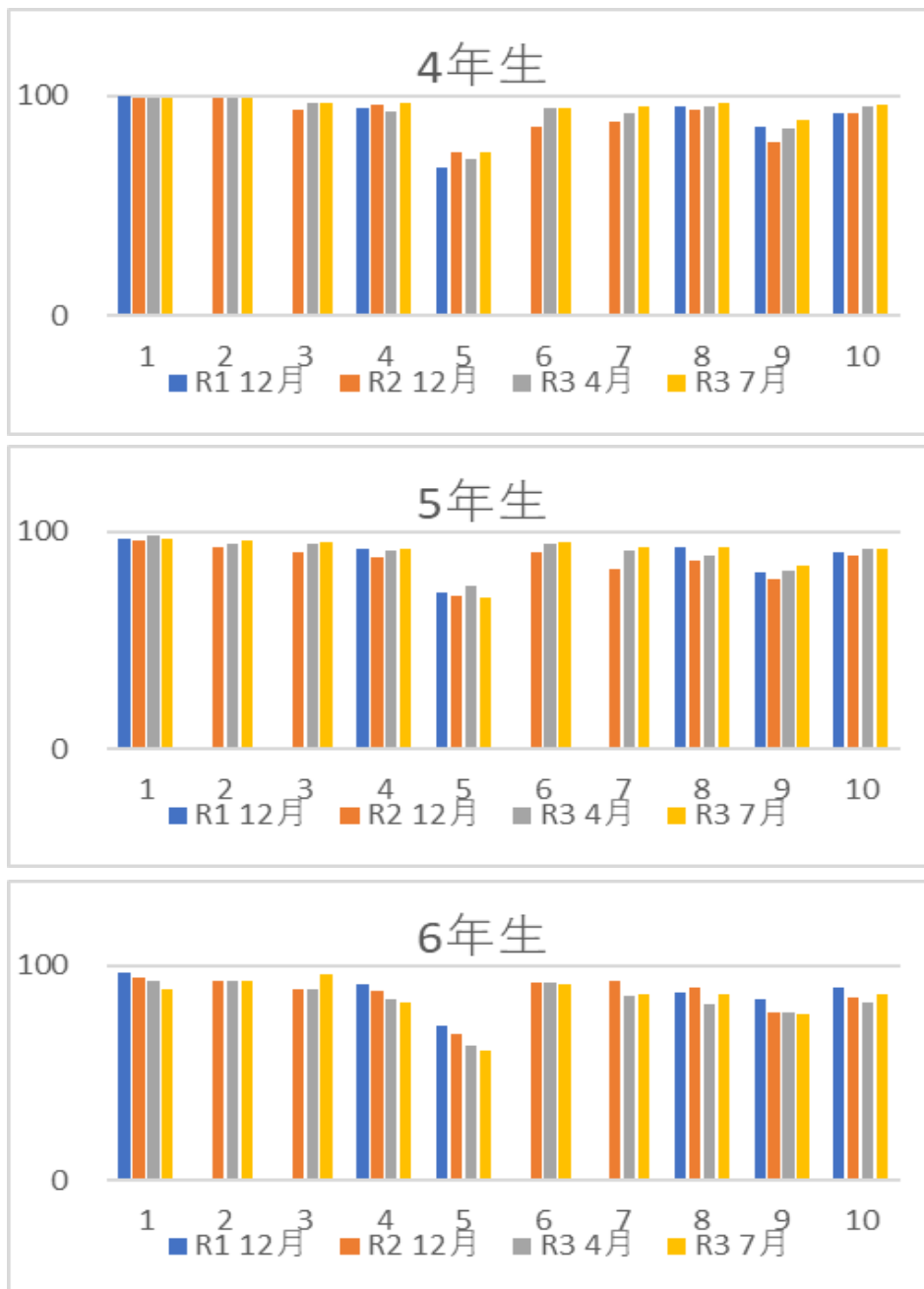
仮説 2「表現と鑑賞を相互に関連させるような指導や環境を工夫することで、新たな発想や構想を得るだろう。

- 「自分にはよいところがある」と答えた児童は、令和元年12月のアンケート結果と比較すると令和2年で81%に減少したが令和3年4月では85%になった。
- 「自分の活動や、完成した作品に満足している」と肯定的に答えた児童が令和3年7月で93%に増加した。
- ▲「友達の作品や活動のよさを見つけて、自分もやってみることがある」に肯定的な回答をした児童は令和3年の中では増加したものの、令和2年12月と比べると減少した。

(2) 同集団での肯定的に答えた児童数の変容

- 1, 図工の授業は楽しい。
- 2, 図工の授業では、形や色に注目している。
- 3, 自分のつくりたいことに近づけるために、いろいろなやり方を工夫している。
- 4, つくっているとアイデアを思い付く。
- 5, アイデアがあっても、どうやってかいたら（つくったら）いいのか分からないことはない。
- 6, 図工の授業では、何度も試したり、はじめはうまくいかなくても、うまくいくように考えたりしている。
- 7, 友達の作品や活動のよさを見付けて、自分もやってみることがある。
- 8, 自分の活動や、完成した作品に満足している。
- 9, 自分にはよいところがあると思う。
- 10, 難しいことでも失敗をおそれずに挑戦している。





〈1 学年の傾向〉

小学校での図画工作の授業が始まり、導入の工夫、形や色などへ着目の仕方、思いを広げるような教師の声かけなど展開の工夫を行う中で、いずれのアンケート項目も伸び、楽しく技能や見方を身に付けている。作品に満足していることと自己肯定感が上がることに関連がある児童が多く、改善している児童が多く見られた。

〈2 学年の傾向〉

図画工作が好きな児童が多く、授業も意欲的に取り組んでいる。全体的に自分で発想したり、工夫したりすることが苦手な児童が多い。教師が児童の生活体験と結びつけるような言葉かけや模範例を提示すると、アイデアを思い出すことが出来る。鑑賞が苦手な児童への支援としては、形や色、雰囲気など少しでも自分がいいな、好きだなと思ったことを見つけさせ、言葉にできるように個別で指導を行った。

〈3 学年の傾向〉

形や色などに注目している・つくっているとアイデアを思い付く児童が4月より増加傾向にあった。導入で、大型モニターで授業内容を動画視聴させたり、完成させたものを見せたりしたことが、良い影響を与えたのだと考える。また、教師が形や色などに注目するような声掛けを行い、児童に気づきの場を与えたのも良い効果をもたらした。

〈4 学年の傾向〉

図画工作の授業に対して前向きに取り組んでいることが分かる。作業を進めていくと形や色に注目しながら何らかのアイデアが自然と思いつくなど豊かな発想をすることができている児童が多いことが分かる。アイデアスケッチやイメージの共有をしてから考えていくことがアンケートの結果につながっているのだろう。

〈5 学年の傾向〉

図工の授業が楽しいと感じている児童の割合が高くなっている。自分が表したいもの考えるときに形や色に注目したり、友達の活動からヒントをもらって取り組んだりすることが、教師側の声かけがなくてもできるようになってきていることにより、自己肯定感も高まっていることが、アンケート結果から読み取ることができる。

〈6 学年の傾向〉

発達段階により、自分を他者と比較して見るようになったためか全体的にアンケートの数値は低下している。しかし、思考を繰り返すことのできる場や展開の工夫の成果で、いろいろなやり方を工夫しようとする姿勢は高まった。つくり、考え、つくるを繰り返すことで、自分の活動や作品に満足していく児童も増えた。また、失敗を恐れずに挑戦しようという気持ちも伸びている。

(3) 考察

〈仮説1について〉

仮説1に対する手立ての導入や展開の工夫により、児童は自分のつくりたいことに近づけるために、いろいろなやり方を考えることができるようになった。また、始めは上手くいかなくても、何度も思考と活動を繰り返せる展開の中で、上手くいくように考えたり試したりできる児童が増えた。これらのことから、図画工作だけでなく日常の中で、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しようという気持ちを育てることにつながったと考える。

〈仮説2について〉

仮説2に対する手立てとして、表現と鑑賞を関連させた指導の工夫を取り入れたことにより、アイデアをもって取り組むことのできる児童が90%いることがわかった。アンケートでアイデアが思い付かないと答えた残りの10%の児童を詳しくみていくと、アートウォッチングをしたり班の子と話をしたりして、友人の活動や作品のよさからアイデアを思い付くための一助としていることが分かった。

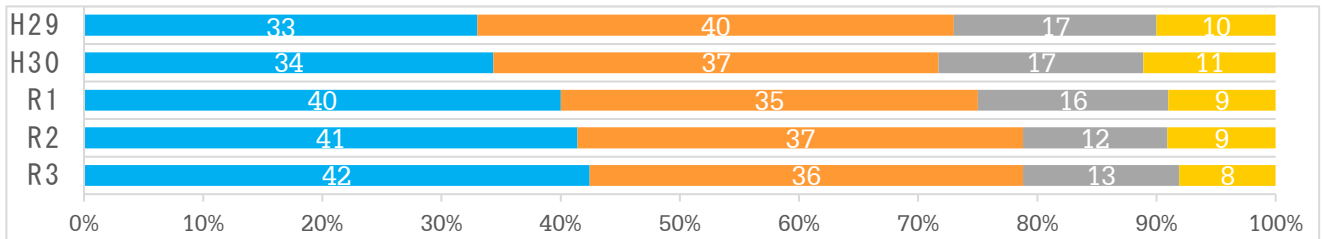
しかし、これまでの経験からアイデアがあり、頭では「こうしたい」とわかっているにもかかわらず自分のアイデアをどのように表現していけばよいのか迷う児童が全学年を通して多い。アンケートを詳しく見ると、自分のしたいことと友人の活動が違い、アートウォッチングではあまり参考にすることができないという回答が多かった。同時に、そのような児童は自己肯定感も低く、自分に自信がもてないことから友達の活動を真似できない傾向が見られた。そのような児童は、自分の中でいろいろと試したり、見方を変えたりして自分の作品を鑑賞することで突破口を見つけていく様子が見られた。最終的には、自分の活動や完成した作品に満足している児童が増加していることから、迷いながらも自分の満足できる表現を実現していることが分かる。また、工夫したことや頑張った事といった小さなことでも認め合うことで、自信をもって活動することにつながり自己肯定感も向上できるのではないかと考える。

2 研究のまとめ

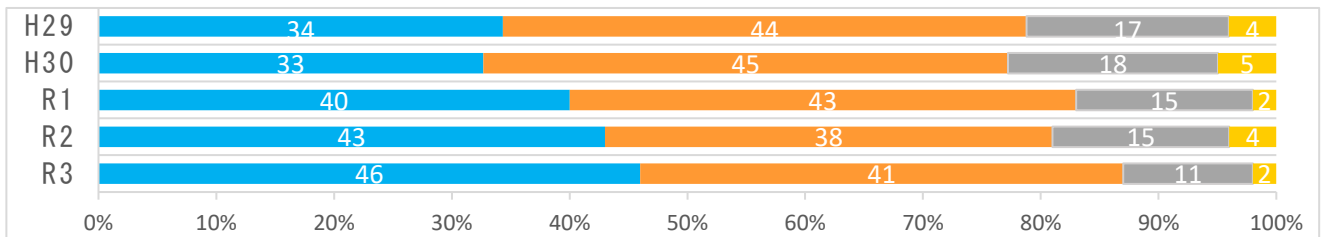
○平成29年度～令和3年度 埼玉県学力・学習状況調査結果（対象：4年～6年）

■ 思う ■ どちらかといえば、思う ■ どちらかといえば、思わない ■ 思わない

質問：自分には、よいところがあると思いますか。



質問：難しいことでも失敗をおそれず挑戦していますか。



本校の研究は、児童の自己肯定感や自信をもって挑戦していく力を伸ばしていきたいという教師の思いから始まった。研究では、図画工作科の授業において、児童が自分の思いをもつこと、自分や他者との対話、環境や材料等との関わりの中で自分の思いを広げていくこと、そしてその思いを実現していくことを通して、児童が自他のよさや可能性に気づき、さらなる挑戦への活力を得ることを常に期待し実践してきた。埼玉県学力・学習状況調査の結果からもその成果が得られたことが分かるのであるが、日々の図画工作科の授業からも児童の変容を実感する場面が多くあった。

一つ目はこだわりをもって表現する児童が増えたということである。自分の思いを実現するために家から材料を持ってきたり、よりよくするために何度も試したりする児童がどの学年でも多く見られる。同時に、たとえうまく行かなくても、そこから新たな表現のよさを見出したり、やり直したりする姿も多く見られた。それは児童が「自分の思い」を肯定的に捉え、それを大事に絶え間なく挑戦しながら実現していこうという態度の現れである。

二つ目は児童同士の対話が増えたということである。児童が授業中に教室内を自由に歩き、友人の活動を見に行くことが当たり前となった。児童の声に耳を傾けてみると、「すごいね。」「それどうやったの?」など、友人の表現を肯定的に受け止めたり、情報を得たりしている。「児童にとって活動や作品をつくり出すことは、自分にとっての意味や価値をつくり出すことであり、同時に自分自身をもつくりだしている」ということは図画工作科の授業で大切にされていることである。図画工作科の授業中に友人からかけられた言葉は、児童にとって自分を丸ごと認められたということになるのではないだろうか。

本研究は図画工作科の指導と評価についての研究であったが、図画工作科の授業だけで児童の自己肯定感や自信をもって挑戦する力が育成されたのではなく、児童の自己肯定感や自信をもって挑戦する力を育てていくという教師の意識が、図画工作科の授業を中心にあらゆる教育活動に作用していたことが寄与していたのではないかと考える。児童の思いを大切にし、児童の活動を励まし続けた教師の姿勢が、本校の児童を育成したのである。そしてその姿勢は、本校での図画工作科の研究が終わった後にも教師の資質としてこれからの教育活動に生き続けることだろう。

一方で校内アンケートでは、全校児童の16%が「自分にはよいところがあると思う」という質問に対して否定的な回答している（P.44参照）。本校すべての児童が自分自身のよさや可能性に気付いていくことができるよう、本研究で得たことを糧に以降も日々の教育活動をさらに充実させていくことが必要である。



御指導をいただいた先生方

東京家政大学家政学部教授	岡田 京子
埼玉県教育局南部教育事務所教育支援担当指導主事	興野 邦孝
戸田市立戸田第二小学校長	山根 淳一
桶川市立日出谷小学校長	閑野 千鶴
上尾市教育委員会学校教育部長	瀧沢 葉子
上尾市教育委員会学校教育部次長	関 孝夫
上尾市教育委員会学校教育部指導課長	瀧澤 誠
上尾市教育委員会学校教育部指導課主幹	松林 剛志
上尾市教育委員会学校教育部指導課指導主事	山田 絵美
上尾市教育委員会学校教育部指導課指導主事	永井 基生
上尾市教育委員会学校教育部指導課指導主事	澤邊 亮
上尾市教育委員会教育センター指導主事	清水 諭

本研究に携わった教職員

(令和3年度)

校長 増田 司	教頭 伊藤 高広	教頭 刀根理恵子		
○池田 浩之	今泉 光恵	清水 泰弘	塚本 夏子	浅見 宗徳
吉澤恵理子	一色 資子	木内夕美絵	橋本麻美子	岩谷 佳子
星 由佳	西方 友洋	○廣瀬 沙希	小西 展子	滝嶋かれん
森田こず枝	風間 友貴	○山崎さつき	廣瀬 悠	矢澤 真友
黒丸 拓海	染谷 優	吉田ちふみ	○貝戸 結香	永山凜太郎
黒田 俊矩	◎山田 空	関口 和孝	田中あんず	○篠崎 恵
喜多 美雪	今伊 萌	山本 陽美	新村 出	篠崎 智裕
金子奈保子	岡野 直美	白上 侑子	石戸谷裕子	野崎貴美江
戸泉 玉恵	小林恵以子	小林かおる	市川 昌代	齋藤 広実
荒井 茂子	柏瀬 雅美	篠原 秀好	阿南 生子	フレイダ スズキ
原田 安介	石関 清	岡田 定夫	黒木 榮巳	メリンダ オノ

(令和2年度)

校長 新井 宏	教頭 恵守みどり			
宮岡 利充	清水 一洋	吉岡 良祐	飯野 聡恵	神田 喜美
塩原 颯太	廣林 達哉	鈴木 優大	甲野 浩子	松岡 孝江
清水 睦美	石井 有子	岡 由紀子	倉持亜理砂	アリアン タボホンダ

◎研究主任 ○研究推進委員

あ と が き

教頭 伊藤 高広

本校は、令和2年度から二年間、上尾市教育委員会の委嘱を受け、図画工作科における研究を進めてまいりました。授業実践を中心に研究を進め、自分の思いを実現するために、何度も試行する児童が増えました。また、児童同士の対話も増え、友人の表現を肯定的に受け止めたりすることができるようになりました。

今後も、本研究で得たことを糧に、日々の教育活動をさらに充実させるため、精進してまいります。最後に、本校の研究を常に温かく見守り、御指導・御支援いただきました先生方に厚く御礼を申し上げます。

【表紙作品の紹介】



題名

海の中にいるとりたち

作者名

2年 田邊 杏果

作者の言葉

にじ色の鳥と魚が楽しく泳いでいるところです。

まんなかの大きい鳥がお母さんで、まわりにいる小さい鳥がこどもです。

お母さん鳥の色を、黄色→黄みどり→みどりと、にた色がとなりになるようにかんがえてぬりました。

クレヨンをぼかしてハートや星のもようをかきました。

